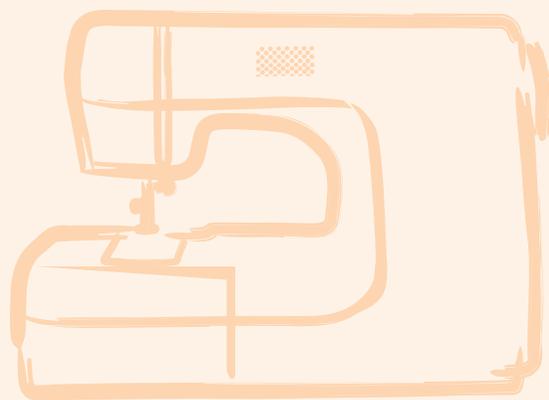


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示		警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。		注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
-----------------------	---	---	---	---

本文中の図記号の意味		△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

	警告 感電・火災の原因となります。
	禁止 ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
	禁止 スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	禁止 電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 傷つける、加工する、はさみ込む、たばねる、引っ張る、無理に曲げたりねじったりする、重い物をのせる、高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
	必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
	必ず実行 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	必ず電源プラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ ミシン使用中に停電したとき

	注意 感電・火災・けがの原因となります。
	分解禁止 分解はしないでください。
	接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	禁止 曲がった針や先つぶれた針は、ご使用にならないでください。
	禁止 めい途中に布を無理に引っ張ったり、押しついたりしないでください。

	注意 感電・火災・けがの原因となります。
	禁止 ミシンの通風口はふさがらないでください。
	禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、使用するときは、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
	禁止 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
	注意 お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	必ず実行 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
	必ず実行 プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
	必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	必ず実行 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 押さえ、アタッチメントを交換するとき ・ 上糸、下糸をセットするとき
	必ず電源プラグを抜く 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ミシンのお手入れを行うとき ・ 針、針板を交換するとき
	必ず電源プラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常に作動しないとき ・ 水にぬれたとき ・ 落下などにより破損したとき ・ 異常な臭い・音がするとき ・ 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

★ご注意

本機種ではジグザグぬい（模様 07）の「ぬい目の幅」は、初期値 5.0 としております。

これは付属のたち目かがり専用「C 押さえ」で、たち目かがりをす
る際に、ジグザグぬいを選択されても、針が「C 押さえ」の針金に
当たるのを防ぐ目的があります。

ジグザグぬい（模様 07）で、「A 押さえ」を使用される場合は、
試しぬいをして、ぬい縮みが出ないように、「ぬい目の幅」や「ぬい
目のあかさ」を調節して、ご使用ください。

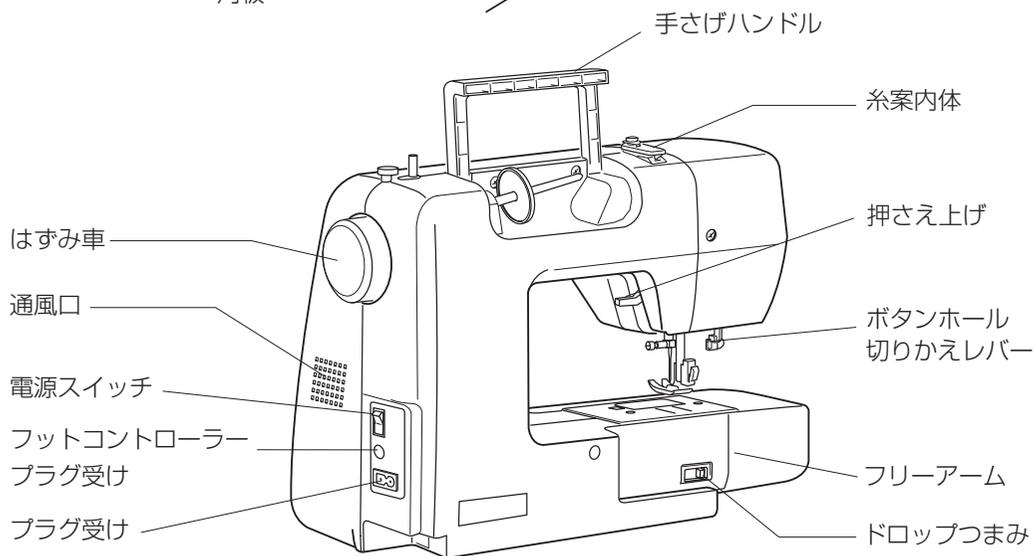
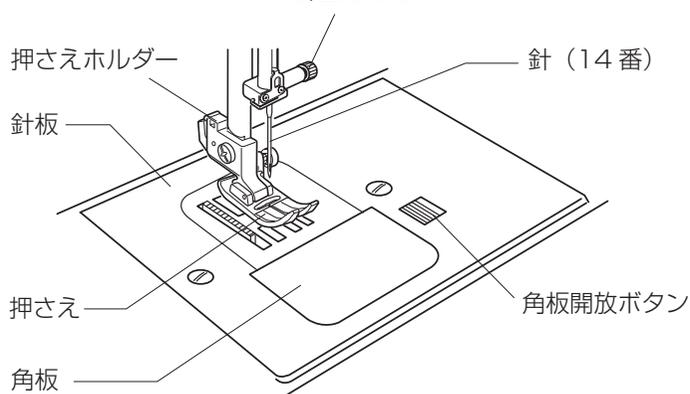
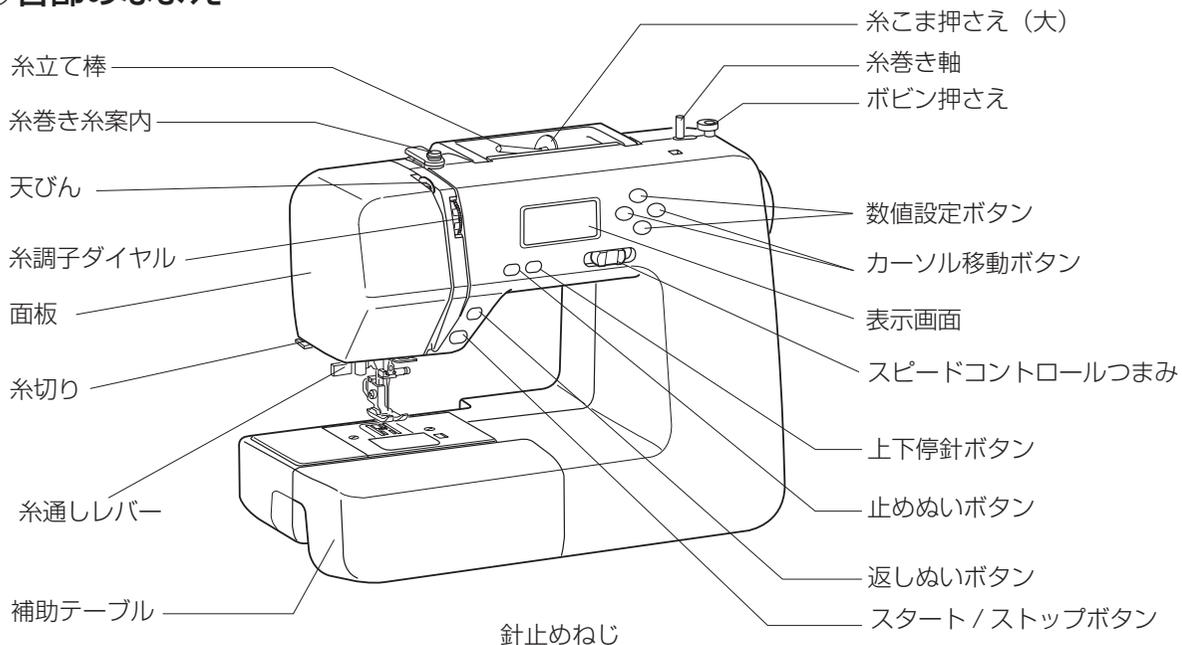
- うす地の場合で、ぬい目の幅（3.0）、ぬい目のあかさ（2.0）が
目安です。

※ 詳しくは、取扱説明書の 25、26 ページをごらんください。

目次

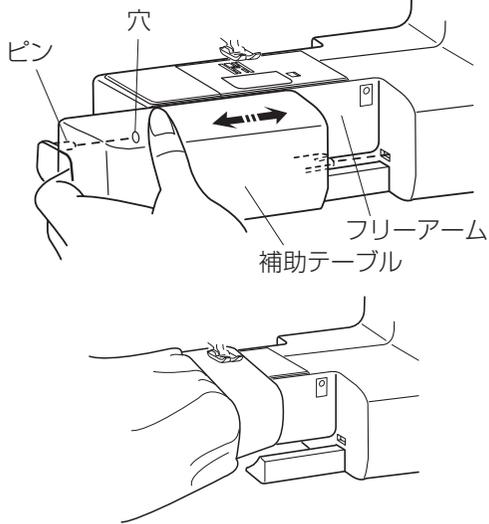
◎ お取り扱いについてのお願い.....	2	● 芯入りボタンホール.....	31
◎ 各部のなまえ.....	3	● ボタン付け.....	32
◎ 収納場所（補助テーブル）.....	4	● ファスナー付け.....	33 ~ 34
◎ 標準付属品と収納場所.....	4	● まつりぬい.....	35
◎ 基本操作.....	5 ~ 19	◎ 応用ぬい.....	36 ~ 38
● 電源のつなぎ方.....	5	● ピンタック.....	36
★ スタート/ストップボタンを使用する場合.....	5	● パッチワーク.....	36
★ フットコントローラーを使用する場合.....	5	● シェルタック.....	37
● スタート/ストップボタン.....	6	● ファゴティング.....	37
● 速さの調節.....	6	● アプリケ.....	38
★ スピードコントロールつまみ.....	6	● スカラップ.....	38
★ フットコントローラー.....	6	◎ ミシンのお手入れ.....	39
● 操作ボタンの主なはたらき.....	7 ~ 8	● かまと送り歯、糸切り部の掃除.....	39
● 送り歯のさげ方.....	9	● 内がまと針板の組み付け.....	39
● 押さえの取りかえ方.....	9	◎ こんな表示が出た場合.....	40
● 押さえホルダーの外し方、付け方.....	10	● 表示画面の対処方法.....	40
● 押さえ上げ.....	10	● ブザー音の種類.....	40
● 糸調子の合わせ方.....	11	◎ ミシンの調子が悪いときの直し方.....	41 ~ 44
★ 自動糸調子.....	11	◎ お取り扱いについてのお願い	
★ マニュアル糸調子.....	11	◇ ご使用の前に	
● 針の取りかえ方.....	12	① ぬう布を汚さないようにするため、針板付	
● 布に適した糸や針を選ぶ目安.....	12	近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわ	
● 下糸の準備.....	13 ~ 15	らかい布で十分にふき取ってください。	
★ ボビンの取り出し.....	13	試しぬいをして、布が汚れないことを確認	
★ 糸こまのセット.....	13	してから使用してください。	
★ ボビンに糸を巻く.....	14	② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使	
★ ボビンのセット.....	15	用しないでください。	
● 上糸の準備.....	16 ~ 18	◇ いつまでもご愛用いただくために	
★ 上糸のかけ方.....	16	① 長時間日光に当てないでください。	
★ 糸通しレバーの使い方.....	17	② 湿気やほこりの多いところは避けてくださ	
★ 下糸を引きあげる.....	18	い。	
● 表示画面の説明.....	19	③ 落としたり、ぶつけたりするなど衝撃を与	
● 模様の選び方.....	19	えないでください。	
◎ 実用ぬい.....	20 ~ 35	ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハ	
● 直線ぬい（中針位置）.....	20 ~ 21	ンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシン	
★ ぬい始め.....	20	をささえてください。	
★ 厚手の布端のぬい始め.....	20	◇ 修理・調整についてのご案内	
★ ぬい方向の変更.....	20	万が一不調になったり故障が生じたりしたときは、	
★ ぬい終わり.....	21	「ミシンの調子が悪いときの直し方」（41 ~ 44	
● 針板ガイドライン.....	21	ページ）によって点検・調整を行ってください。	
● ぬい目のあらさをかえるとき.....	22		
● 針位置をかえるとき.....	22		
● 直線状のぬい目.....	23 ~ 24		
● ジグザグぬい.....	24 ~ 25		
★ ぬい目の幅・あらさをかえるとき.....	24 ~ 25		
● たち目かがり.....	25 ~ 26		
● トリコットぬい.....	26		
● ボタンホール.....	27 ~ 30		
★ ボタンホールの種類.....	27		
★ ボタンホール 10			
（スクエアボタンホール）.....	27 ~ 29		
★ 【ボタンホール重ねぬい】.....	29		
★ ぬい目の幅・あらさをかえるとき.....	30		
★ ボタンホール 11、12 のぬい.....	30		

◎各部のなまえ



- ※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

◎収納場所（補助テーブル）



【補助テーブルの外し方】

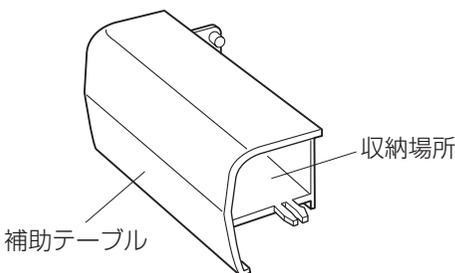
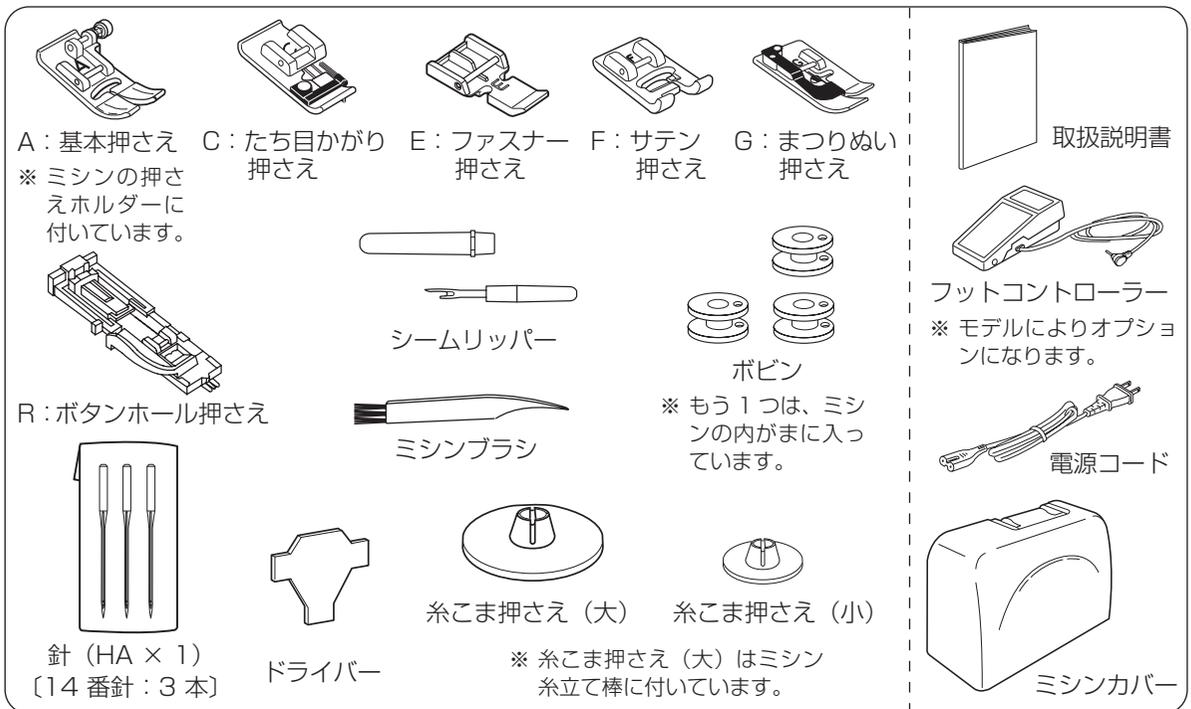
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※ 補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームに合わせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

【フリーアームの使い方】

そで口やすそなどのぬい、および、ふくろ物の口端の始末に利用します。

◎標準付属品と収納場所



補助テーブルの中に、押さえなどの小物が収納できます。

ミシンの使い方については、以下の QR コードもしくは URL から説明動画をごらんいただけます。



説明動画

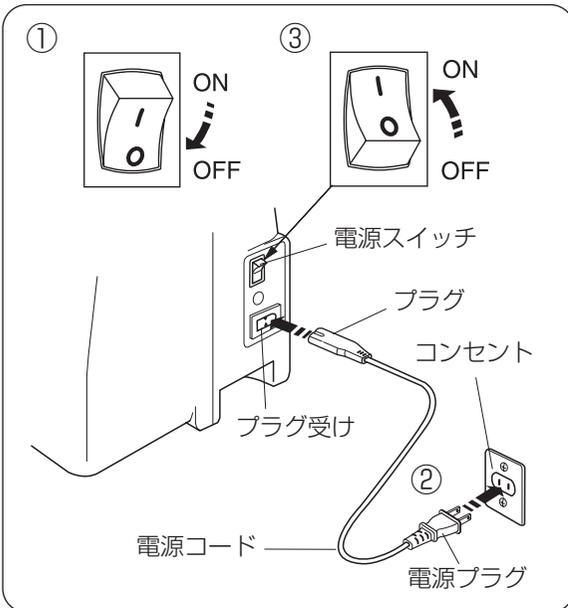
<https://www.youtube.com/watch?v=flt9F5sDaSY>

◎ 基本操作

● 電源のつなぎ方

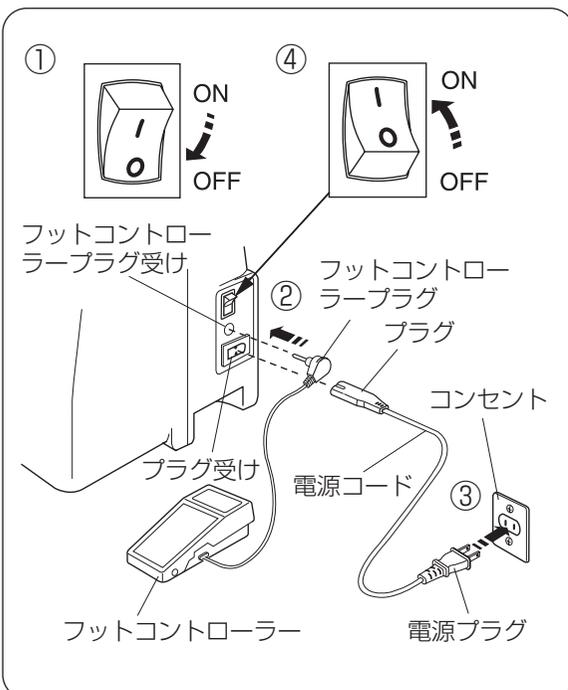
⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると、湿気などによって絶縁不良となり火災の原因となります。



★ スタート/ストップボタンを使用する場合

- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
 - ② プラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - ③ 電源スイッチを「ON」(入) にします。
- ※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。
 - ※ 初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。
 - ※ 必ず付属の電源コードを使用してください。



★ フットコントローラーを使用する場合

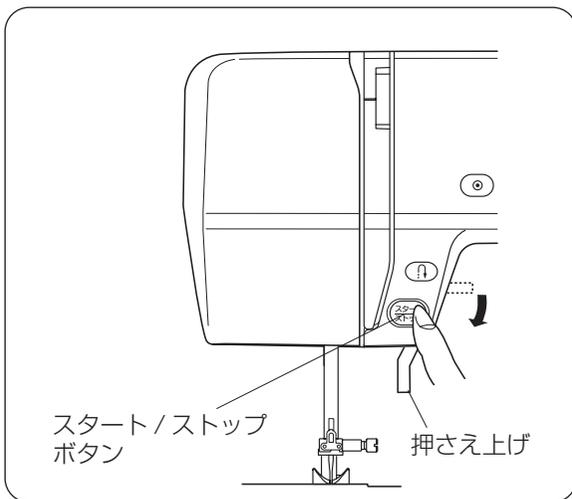
- ※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。
- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
 - ② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
 - ③ プラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。
- ※ フットコントローラーを接続したときは、スタート/ストップボタンは使えません。

フットコントローラー表示



フットコントローラーを接続すると、表示画面にフットコントローラー表示が点灯しています。

● スタート/ストップボタン



ボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。

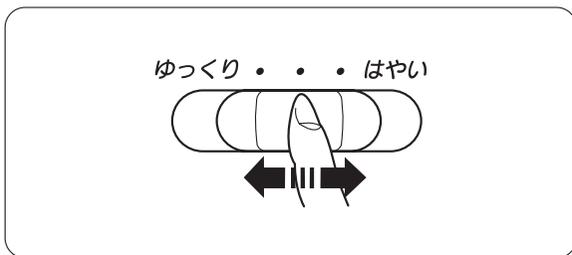
もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

- ※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ（手をはなすまで）は、低速で動きます。
- ※ スタート/ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

● 速さの調節

ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

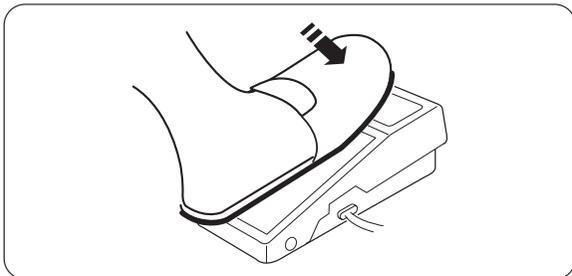
★ スピードコントロールつまみ



スピードコントロールつまみは、スタート/ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。つまみの位置が右側になるほど速くなります。

- ※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱい踏み込んだときの最高速度を調節できます。
- ※ 最高速度は、模様のない目のあらさ、および模様の種類によって変化します。

★ フットコントローラー



- ※ フットコントローラーはモデルによりオプションになります。

フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節できます。

- 深く踏む→速くなる。
- 浅く踏む→遅くなる。

- ※ フットコントローラーを一番深く踏み込んだときのミシンの最高速度は、スピードコントロールつまみで調節します。

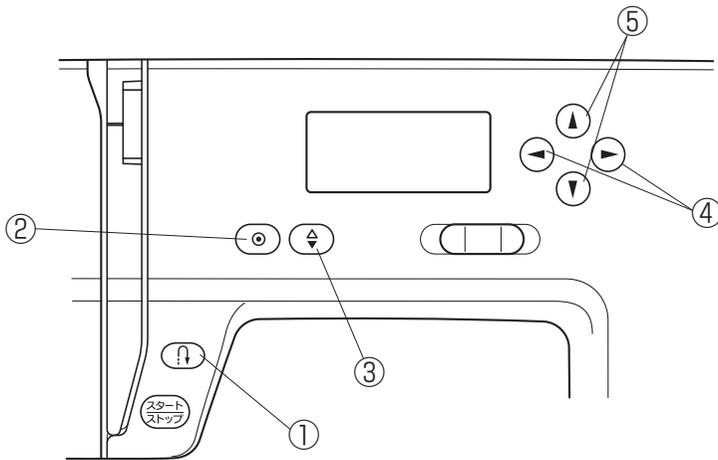
- ※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置（最高速）にして、踏みかげんで調節してください。

- ※ 細かいものをぬうときなどは、低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱい踏み込んででもスピードがでないので使いやすくなります。

⚠ 注意

- フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因となります。
- フットコントローラーを使用する場合、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けが・故障の原因となります。

● 操作ボタンの主なはたらき



① 返しぬいボタン



【運転中の返しぬい】

模様 $\begin{matrix} 00 \\ \downarrow \\ \downarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 01 \\ \downarrow \\ \downarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 07 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 08 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ は、ぬっている途中でボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをします。その他の模様有的时候には、すぐに数針止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】

(フットコントローラーを接続しているときは、使用できません。)

模様 $\begin{matrix} 00 \\ \downarrow \\ \downarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 01 \\ \downarrow \\ \downarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 07 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 08 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと止まります。

② 止めぬいボタン



模様 $\begin{matrix} 00 \\ \downarrow \\ \downarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 01 \\ \downarrow \\ \downarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 07 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 08 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ は、ボタンを押すと止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様有的时候には、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておく、模様を1つぬって自動的に止まります。

③ 上下停針ボタン



ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

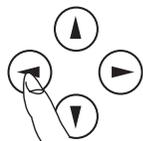
※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。(電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。)

※ 下位置に切りかえておいても、模様 ($\begin{matrix} 10 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 11 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$ $\begin{matrix} 12 \\ \updownarrow \\ \updownarrow \end{matrix}$) は、ぬい終わったときには、上位置で止まります。

④カーソル移動ボタン



カーソル

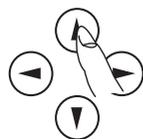
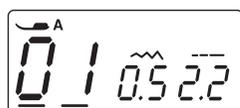


モード（模様、ぬい目の幅、ぬい目のあらさ）を設定するときには、◀ ▶ ボタンを押します。

※ ◀ ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。

※ ▶ ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

⑤数値設定ボタン



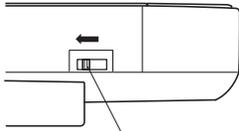
モードの数値を変更するときには、▲ ▼ ボタンを押します。

※ ▲ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。

※ ▼ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

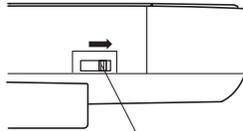
● 送り歯のさげ方

送り歯をさげる位置

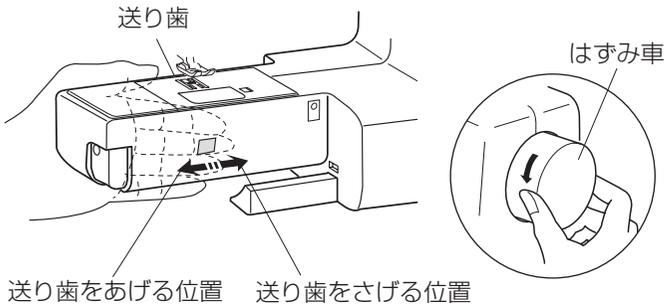


ドロップつまみ

送り歯をあげる位置



ドロップつまみ



ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯を下げます。

※ 送り歯を下げたときは、使用する模様のぬい目のあらさを最小値に設定してください。

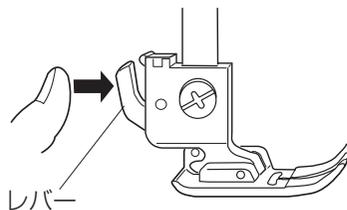
※ 終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認してください。

● 押さえの取りかえ方

⚠ 注意

- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- 押さえは模様にあったものを使用してください。押さえが合っていないと針が押さえに当たり、けがの原因となります。

【1】



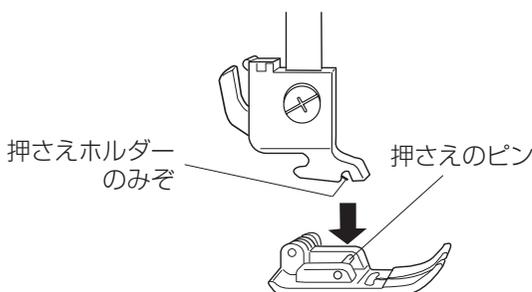
【1】 押さえの外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

※ 押さえ上げのあげ方は、「●押さえ上げ」(10 ページ) をごらんください。

※ レバーを上から押さないでください。故障の原因となります。

【2】



【2】 押さえの付け方

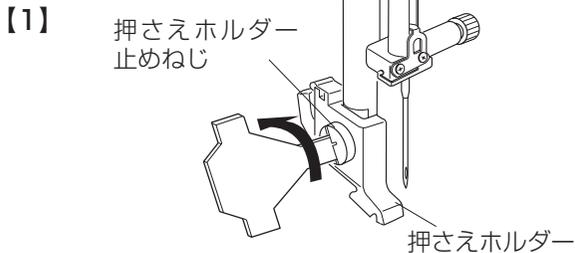
押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをゆっくりさげます。

● 押さえホルダーの外し方、付け方



注意

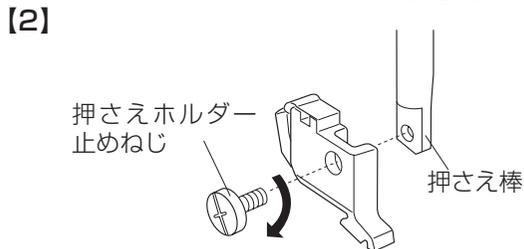
押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。



押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

【1】 押さえホルダーの外し方

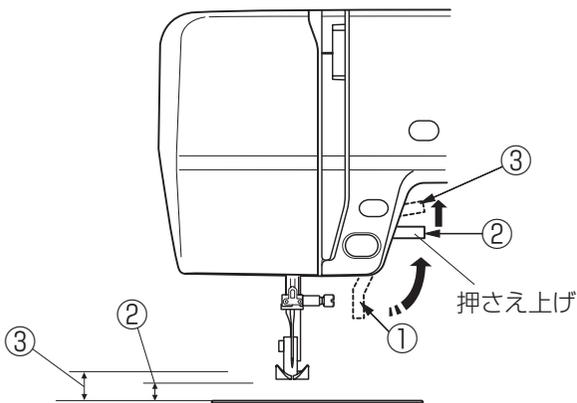
押さえホルダー止めねじをドライバーで左にまわして外し、押さえホルダーを外します。



【2】 押さえホルダーの付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

● 押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高く
あげることもでき、厚い布を入れるときなどに
利用できます。

① 押さえ上げをさげた位置：

ぬうときなど

② 普通にあげた位置：

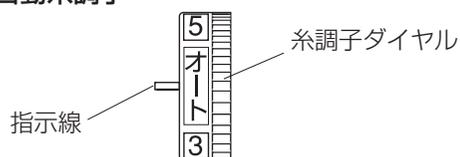
布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの
交換のときなど

③ さらにあげた位置（固定はできません。）：

厚い布を入れるときなど

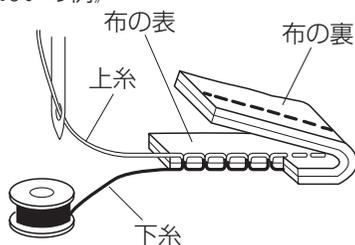
● 糸調子の合わせ方

★ 自動糸調子

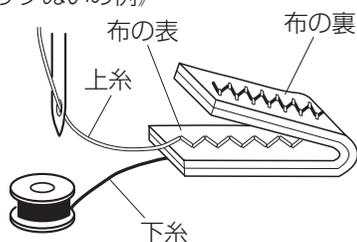


〔バランスのとれた糸調子〕

《直線ぬいの例》



《ジグザグぬいの例》



糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせて、上糸と下糸がバランス良くぬえるように、自動セットされます。

【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

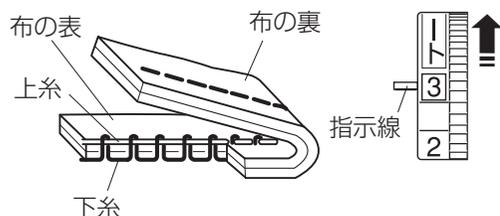
- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなる
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなる

糸や布の種類などによって、「オート」の位置で糸調子のバランスがとれない場合、下記「★マニュアル糸調子」の方法で調節します。

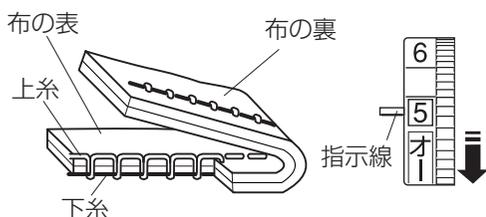
※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

★ マニュアル糸調子

《上糸が強すぎる場合の調節》



《上糸が弱すぎる場合の調節》



糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせてみます。

【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせてみます。

布地の裏がタオル地のような場合

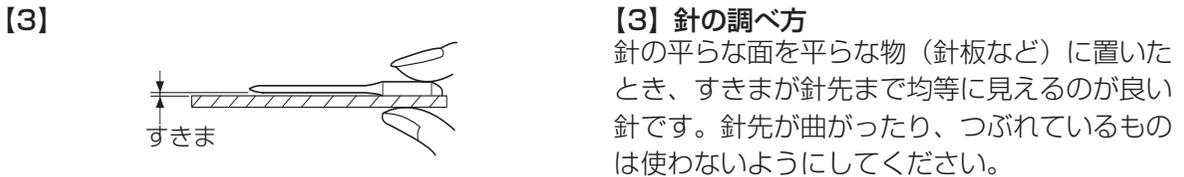
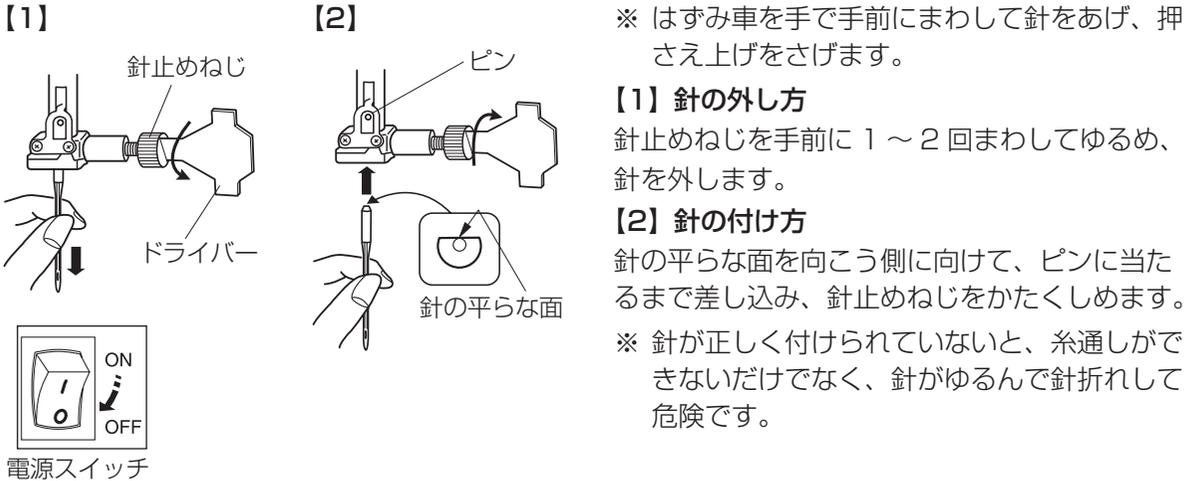
図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなのは、上糸の糸調子が弱いか、上糸のかけ方がまちがっています。上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。

「●上糸の準備 / ★上糸のかけ方」(16 ページ) 参照

● 針の取りかえ方

⚠ 注意

針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。



● 布に適した糸や針を選ぶ目安

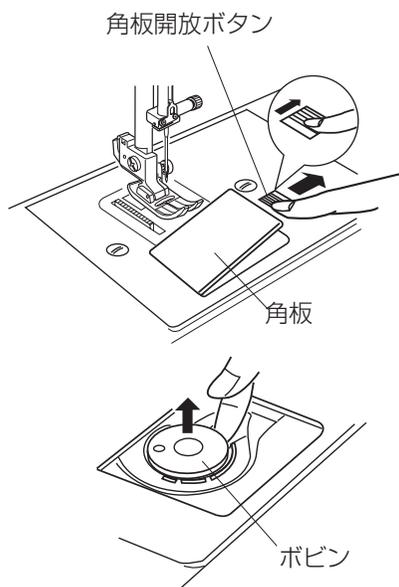
※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。

布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～11 番 または ジャンメブルー針（オプション）
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～90 番	11 番～14 番 または ジャンメブルー針（オプション）
		綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	綿糸 40 番～50 番 ポリエステル 40 番～50 番	14 番～16 番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

- ※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。
- ※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。
- ※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコットなど）や目とびしやすい布地は、ジャンメブルー針（オプション）を使用すると、目とびの防止効果があります。

● 下糸の準備

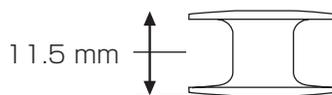
★ ボビンの取り出し



押さえ上げをあげ、角板開放ボタンを右へずらして角板を外します。ボビンを取り出します。

お願い

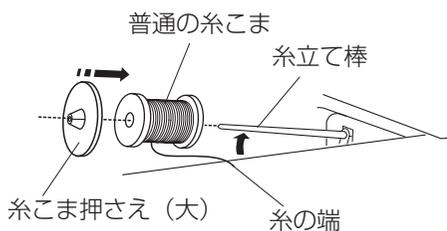
- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)



- ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。
- 金属ボビンは使用しないでください。かまにマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。

★ 糸こまのセット

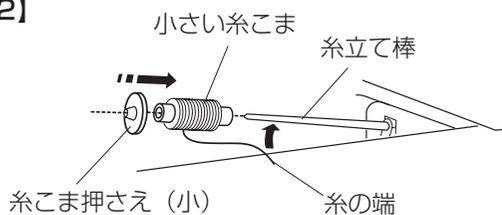
【1】



【1】 普通の糸こまの場合

糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを糸立て棒に入れます。糸こま押さえ (大) を糸こまにしっかりと押し付け、押さえます。

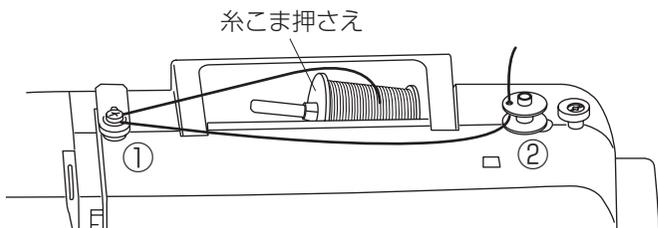
【2】



【2】 小さい糸こまの場合

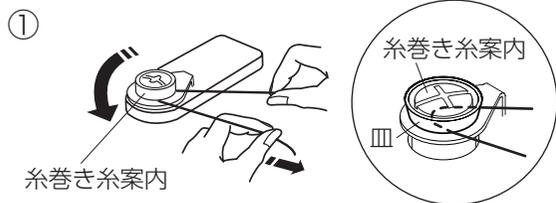
小さい糸こまのときには、糸こま押さえ (小) を使ってください。

★ ボビンに糸を巻く



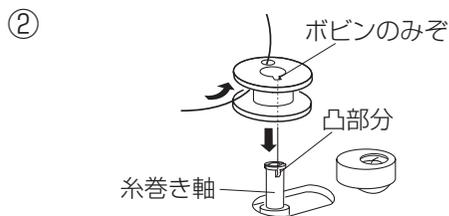
※ 糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。

※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。



① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。

※ 糸を確実に皿の下に入れてください。糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に糸を巻くことができません。

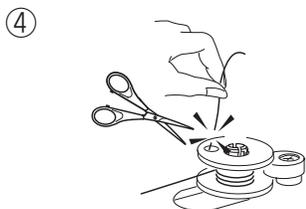


② ボビンの穴に内側から糸を通します。糸巻き軸の凸部分とボビンのみぞが合うように、糸巻き軸にボビンを差し込みます。

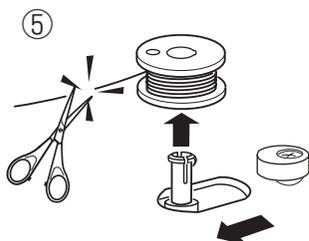


③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。表示画面に糸巻き位置にセットされたことを示す糸巻き表示が点灯します。

※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。部品が外れることがあります。



④ 糸の端をつまんだままミシンをスタートさせ、ボビンに糸を約 3 秒間ほど巻きつけたらミシンを止めます。穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。

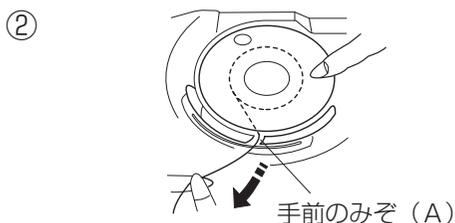
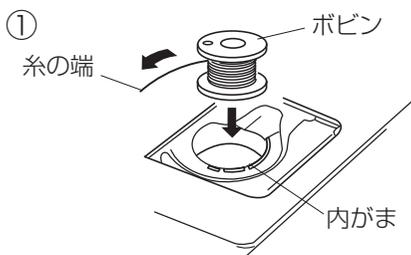


⑤ 再びミシンをスタートさせ、下糸を巻きます。下糸が巻き終わると、ボビンの回転が止まります。ボビンの回転が止まったらミシンを止めます。ボビンを左側にもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。

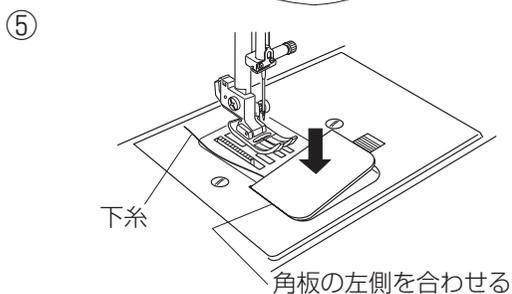
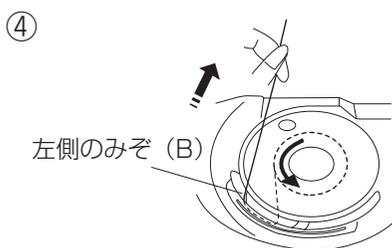
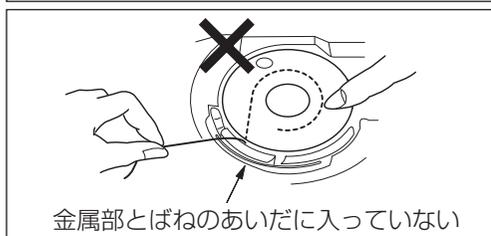
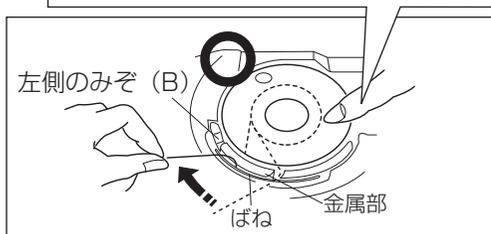
※ ボビン（糸巻き軸）は、必ずミシンを止めてから移動してください。

※ 糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約 2 分間で自動停止します。

★ ポビンのセット



③ ※ 糸をかけるときは、ポビンが回転しないよう、指で押さえてください。

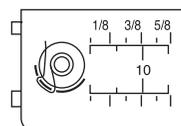


⚠ 注意

ポビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因となります。

① 糸の端を矢印方向に出し、ポビンを内がまに入れます。

※ ポビンから引き出される糸の状態の図が、角板に表示されています。



② ポビンが回転しないよう、ポビンを右手で軽く押さえます。

糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞ (A) にかけます。

※ 各部に糸を確実にかけるため、下記の手順④が終了するまで、右手でポビンを押さえた状態で行ってください。

③ 糸の端を引き、金属部とばねのあいだを通しながら左側のみぞ (B) のところに出します。

※ 手順②で、内がまの手前のみぞ (A) に糸がかかっていない場合、ばねと金属部のあいだに糸が入りません。その場合は、手順②からかけ直します。

※ 糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因となります。

④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。

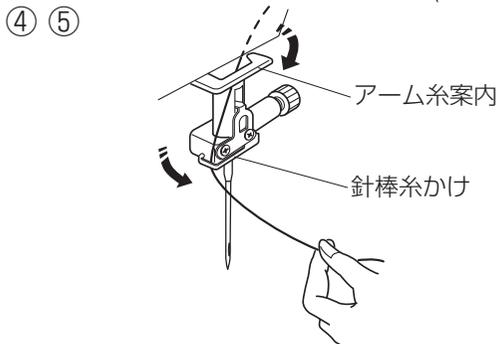
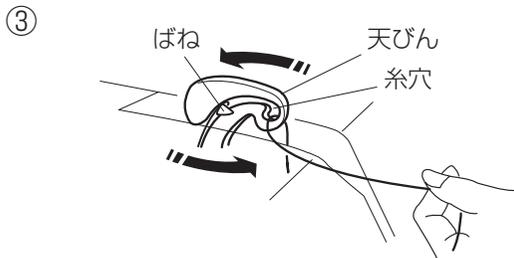
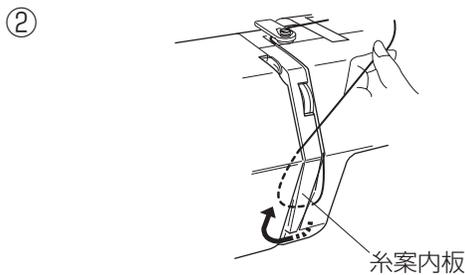
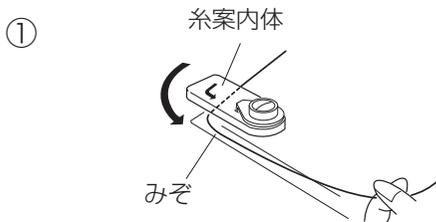
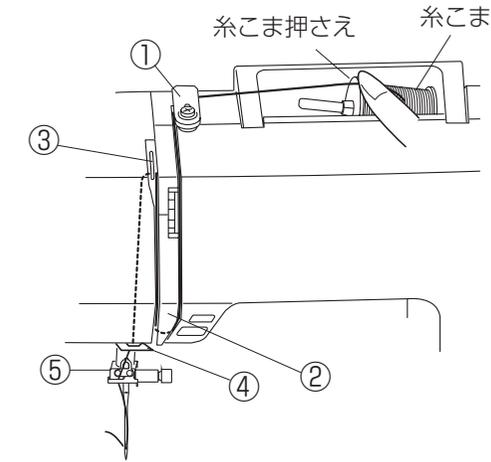
※ 糸を引き出したとき、ポビンは反時計方向に回転します。

時計方向に回転した場合、ポビンの向きを上下逆に入れかえます。

⑤ 下糸は約 10 cm 引き出して、角板を左側から合わせて取り付けます。

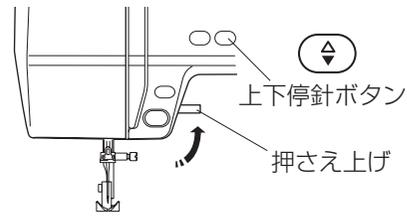
● 上糸の準備

★ 上糸のかけ方



※ はじめに、下記の【準備】を必ず行ってください。ぬい不良の原因となります。

【準備】



1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源スイッチを「ON」(入)にします。
上下停針ボタンを押して針と天びんをあげます。
3. 電源スイッチを「OFF」(切)にします。

⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因となります。

※ 各部に糸を確実にかけるため、常に右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら、左手で強めに引いて上糸かけを行ってください。

※ 糸こまのセット方法は、13ページ「★糸こまをセットします」をごらんください。

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下にかけて、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内板の下をくぐらせ、左上に引きあげます。

※ 必ず押さえ上げがあがっていることを確認してください。

③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸がばねを通過し、天びんの糸穴まで入っていることを確認してください。

④ 糸を右からアーム糸案内にかけ、左から針棒糸かけにかけます。

⑤ 糸通しレバーを使って針に糸を通します。
(「★糸通しレバーの使い方」17ページ参照)

★ 糸通しレバーの使い方

⚠ 注意

糸通しレバーを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

※ 針は家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番～16 番、糸は 50 番～90 番が使用できます。

① 上糸かけのとき (16 ページ参照) に上下停針ボタンで針と天びんをあげた状態のまま、押さえ上げをさげます。糸通しレバーを止まるまでさげます。糸通しレバーが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

※ 針穴にフックが入っていることを確認してください。

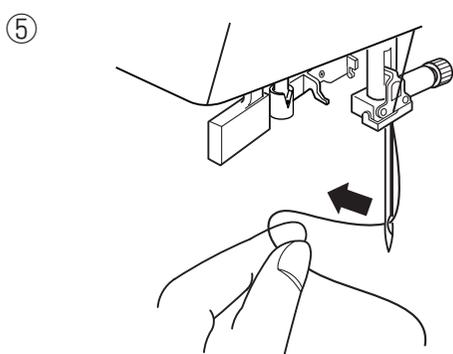
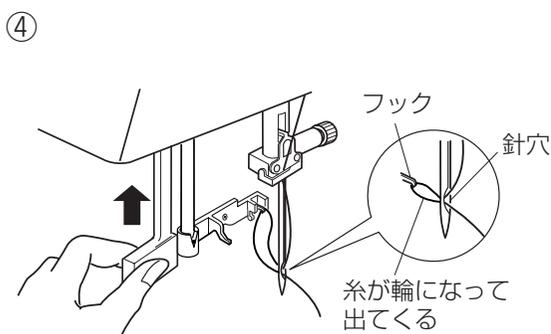
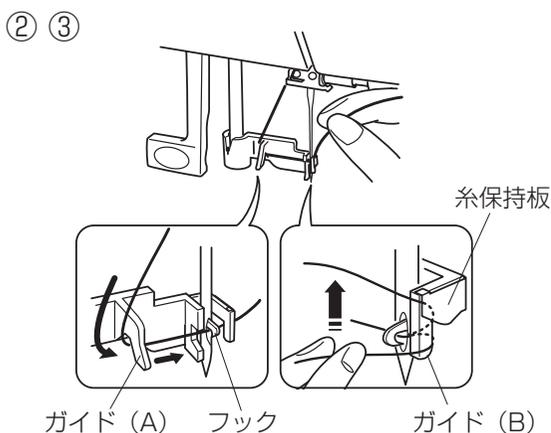
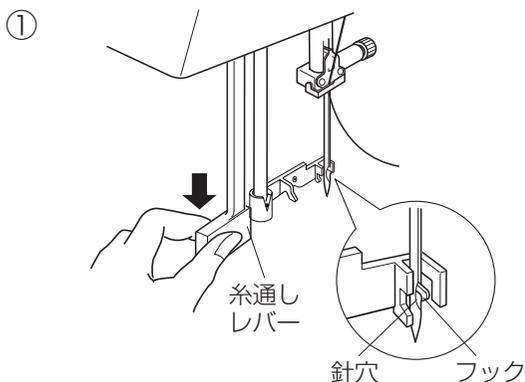
② 糸を左側からガイド (A) とガイド (B) にかけてます。

※ 糸がフックの下を通っていることを確認してください。

③ 糸をガイド (B) の右から手前にまわして、そのままガイド (B) の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

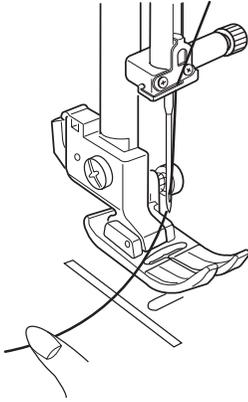
④ 糸通しレバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪をフックから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の端を引き出します。



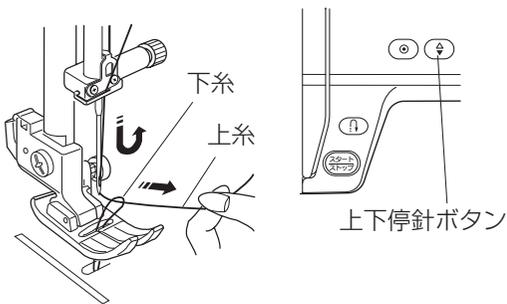
★ 下糸を引きあげる

①



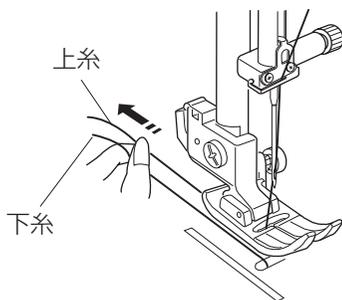
① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②



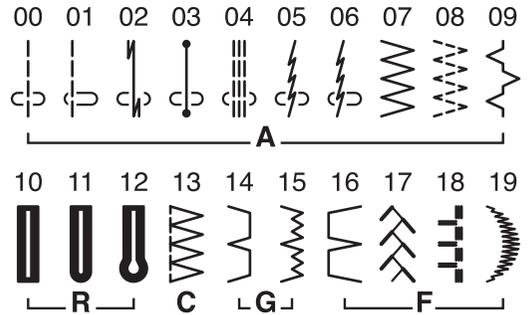
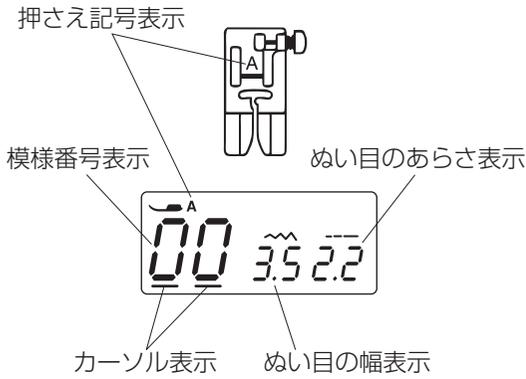
② 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを2回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③



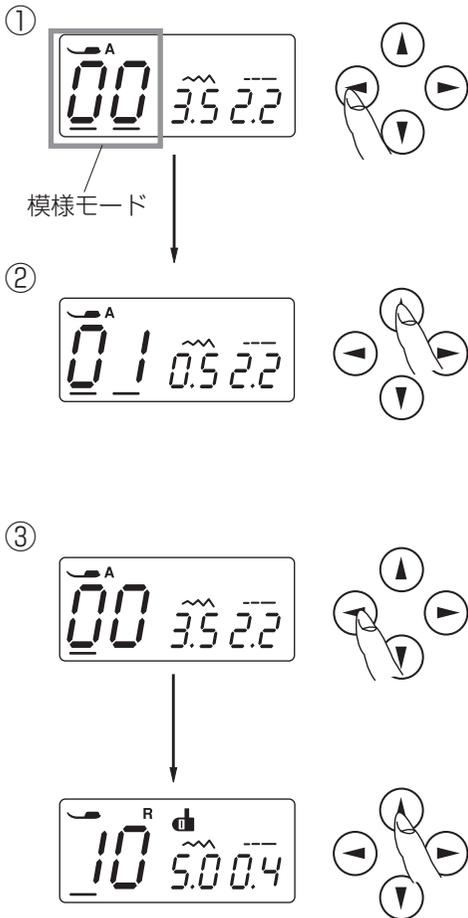
③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10 cm うしろにそろえて引き出します。

● 表示画面の説明



※ 模様の下にあるアルファベットは、模様をぬうときに使用する標準的な押さえの記号を表示しています。

● 模様の選び方



① ▲ ▼ ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。

① ◀ ▶ ボタンで模様モードを選びます。

② ▲ ▼ ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。

③ ◀ ▶ ボタンの ◀ を押して、カーソルを1つにして、▲ ▼ ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあらしの変更は、22、24～25ページをごらんください。

◎ 実用ぬい

● 直線ぬい（中針位置）

ミシンのセット

模様



表示画面

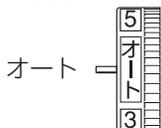


押さえ

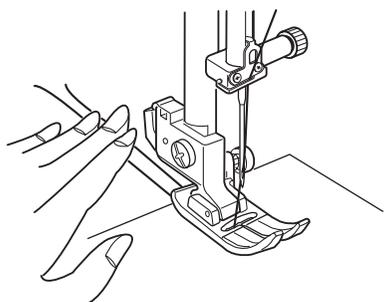


A：基本押さえ

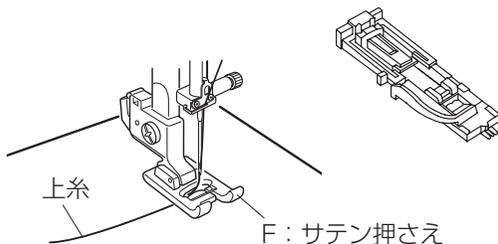
糸調子ダイヤル



★ ぬい始め



R：ボタンホール押さえ



糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、スタート/ストップボタン（フットコントローラー）で、ぬい始めます。

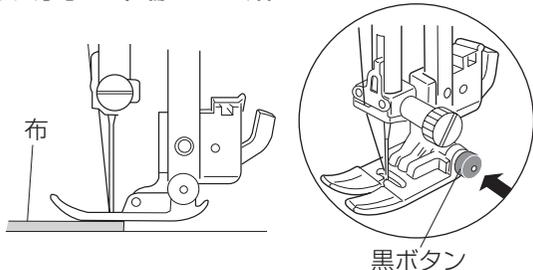
※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様⁰²と自動止めぬい模様⁰³を使う方法があります。（23 ページをご覧ください。）

ぬい始めの糸の引き出し方

通常は、ぬい始めの上糸は押さえの向こう側に引き出して、押さえで押さえます。

ただし、F：サテン押さえや R：ボタンホール押さえなど押さえの裏側の前後方向（縦方向）がへこんでいて糸を押さえる部分がない場合は、ぬい始めの糸は横方向に引き出して、押さえで押さえてください。

★ 厚手の布端のぬい始め



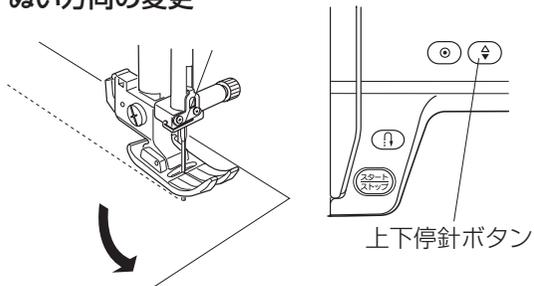
黒ボタン

① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② 黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。

黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。押さえが完全に布の上になると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

★ ぬい方向の変更



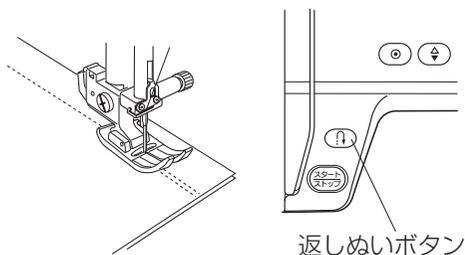
上下停針ボタン

ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。

針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

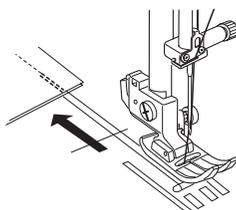
★ ぬい終わり

【1】

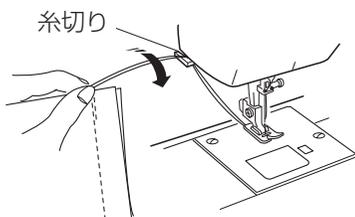


返しぬいボタン

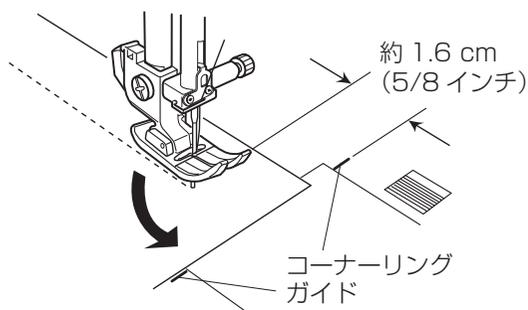
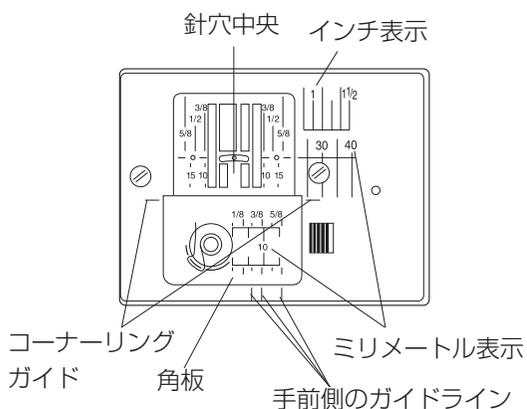
【2】



【3】



● 針板ガイドライン



【1】 返しぬい

返しぬいボタンを押しながら、数針返しぬいをします。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様⁰²と自動止めぬい模様⁰³を使う方法があります。(23ページをごらんください。)

【2】 布の引き出し方

針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】 糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

針板、および角板には針穴中央からの長さを表示しています。

※ ガイドラインの数字は針穴中央からガイドラインの間かくを「ミリメートル」と「インチ」で示します。

※ 針板の手前側にもガイドライン左から 0.6 cm (1/4)、0.9 cm (3/8)、1.6 cm (5/8) を表示しています。

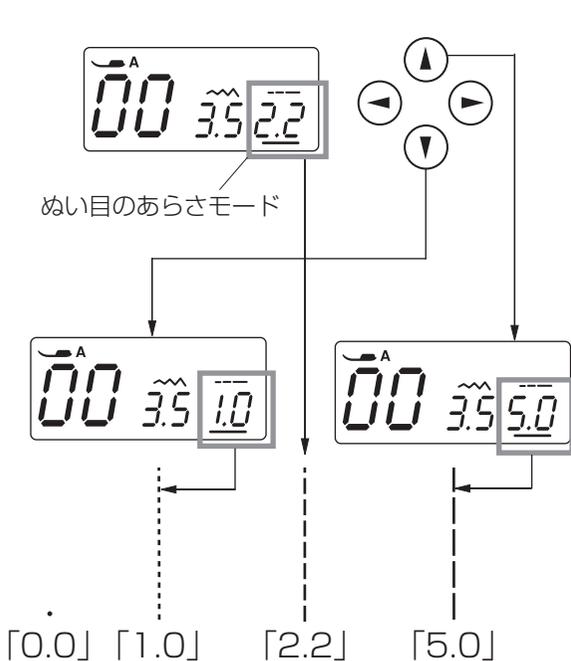
布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

【コーナーリングガイド】

布端から約 1.6 cm (5/8 インチ) のところで直角にぬい方向をかえるときに利用します。

- ① 布端がコーナーリングガイドのところきたら、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して、針を布にさします。
- ② 押さえ上げをあげ、布を回転させてガイドラインの約 1.6 cm (5/8) に合わせます。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

● ぬい目のあらさをかえるとき



◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は2.2です。

※ 0.0～5.0の範囲でかえることができます。（0.0から1.0に、1.0から1.5に、1.5から1.8にかえることができます。1.8から3.0まで0.2ずつかえることができ、また3.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）

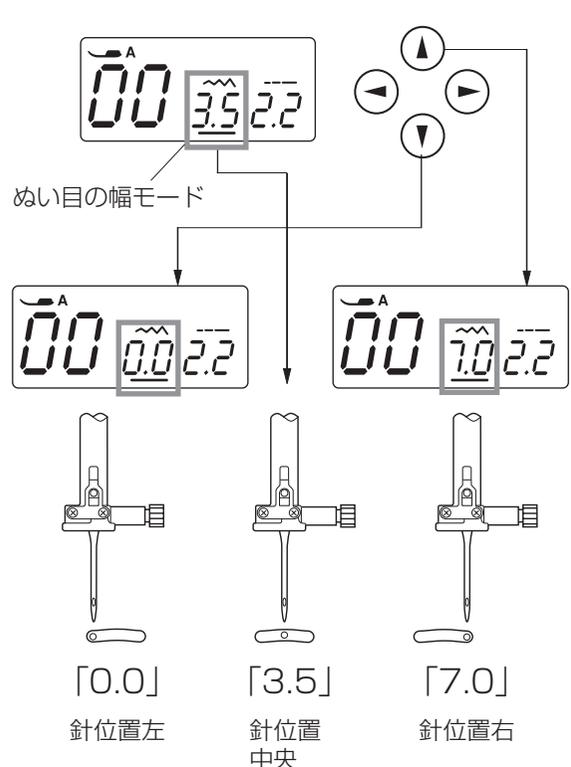
※ ぬい目のあらさは、布や糸によりかわりますので、画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

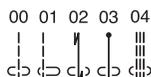
「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細くなります。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

※ 返しぬいのぬい目あらさは、表示数値より小さくなります。

● 針位置をかえるとき



※ 直線状のぬい目、模様  は、針位置をかえることができます。

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は3.5です。

※ 模様01の初期値（購入時のセット状態）は0.5です。

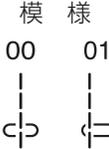
※ 0.0～7.0の範囲で0.5ずつかえることができます。

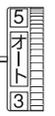
※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。直線状模様の場合では、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。

「▼ ボタン」を押すと表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。

「▲ ボタン」を押すと表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

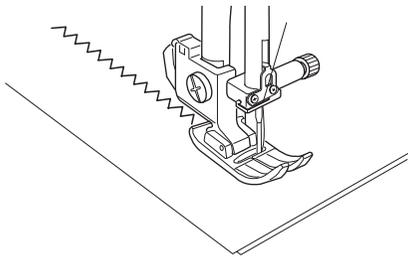
● 直線状のぬい目

ミシンのセット	用途
<p>地ぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>00 01</p>  <p>A: 基本押さえ</p> 	<p>地ぬいや、ファスナー付けなどに利用します。</p> <p>※ 模様⁰¹は、端ぬいに利用します。</p>
<p>自動返しぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>02</p>  <p>A: 基本押さえ</p> 	<p>ぬい始めとぬい終わりにしっかりしたほつれ止め（返しぬい）を自動的に行います。</p>
<p>【ぬい始め】 ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。</p> <p>【ぬい終わり】（スタート/ストップボタン使用時） ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。その位置から自動的に数針返しぬいをしてミシンが停止します。</p> <p>【ぬい終わり】（フットコントローラー使用時） ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。ミシンを停止してから返しぬいボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置から自動的に数針返しぬいをしてミシンが停止します。 運転したまま返しぬいボタンを押した場合も、その位置から自動的に数針返しぬいをして、ミシンが停止します。</p>	
<p>自動止めぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>03</p>  <p>A: 基本押さえ</p> 	<p>ぬい始めとぬい終わりに目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に行います。</p>
<p>【ぬい始め】 ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。</p> <p>【ぬい終わり】（スタート/ストップボタン使用時） ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。その位置で自動的に数針止めぬいを行ってミシンが停止します。</p> <p>【ぬい終わり】（フットコントローラー使用時） ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。ミシンを停止してから返しぬいボタンを押した場合は、再度フットコントローラーを踏むと、その位置で自動的に数針止めぬいをしてミシンが停止します。 運転したまま返しぬいボタンを押した場合、その位置で自動的に数針止めぬいをして、ミシンが停止します。</p> <p>※ ぬい終わりに、返しぬいボタンのかわりに止めぬいボタンを押しても、その位置で自動的に数針止めぬいをしてミシンが停止します。</p>	

ミシンのセット			用途
三重ぬい 模様 押さえ 糸調子ダイヤル 04   A：基本押さえ 	伸縮性のある強いぬい目です。 ズボンの股やそでの付け根など、特に強度が必要な場所の補強に使用します。		
伸縮ぬい 模様 押さえ 糸調子ダイヤル 05 06    A：基本押さえ 	布が伸びても糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。 直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニットやトリコットなどのぬい合わせに便利です。 ※ 模様  は、うす地のニット素材に利用します。		

● ジグザグぬい

ミシンのセット			
模様 07 	表示画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 



ジグザグぬい（模様07）で「A押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みが出ないように、ぬい目の幅やぬい目のあらしさを調節して、ご使用ください。

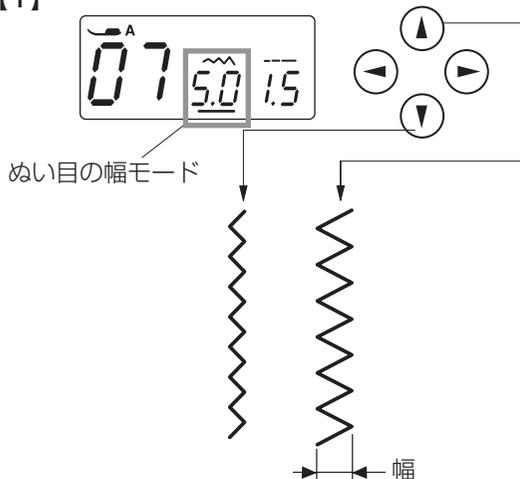
（うす地の場合で、ぬい目の幅3.0、ぬい目のあらしさ2.0が目安です。）

ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろいろなぬい方ができます。

※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ ぬい目の幅・あらしさをかえるとき

【1】



【1】 ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は5.0です。

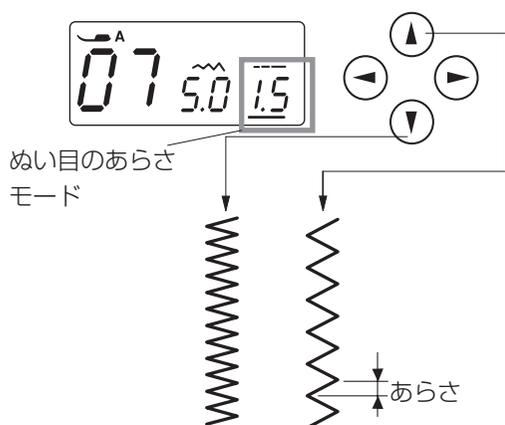
※ 0.0～7.0の範囲で0.5ずつかえることができます。

※ 画面の数値は、ぬい目の距離の目安をミリメートルで表示しています。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、幅が広がります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、幅がせまくなります。

【2】



【2】ぬい目のあらかさをかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらかさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 1.5 です。

※ 0.2 ～ 5.0 の範囲でかえることができます。（0.2 ～ 1.0 まで 0.1 ずつ、1.0 から 5.0 まで 0.5 ずつかえることができます。）

※ 画面の数値は、ぬい目のあらかさの目安をミリメートルで表示しています。

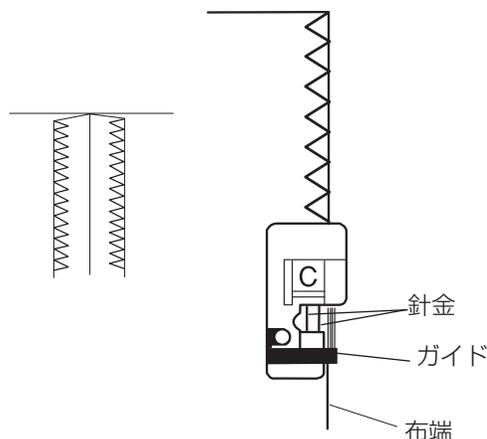
「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

● たち目かがり

【ジグザグぬいのたち目かがり】

ミシンのセット			
模様 07 	表示画面 	押さえ A：基本押さえ または C：たち目かがり押さえ	糸調子ダイヤル オート



布端をたち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。

布端のほつれ止めとして広く利用します。

※ たち目かがり押さえ C を使用するとき、ぬい目の幅は、5.0 ～ 7.0 でぬいます。

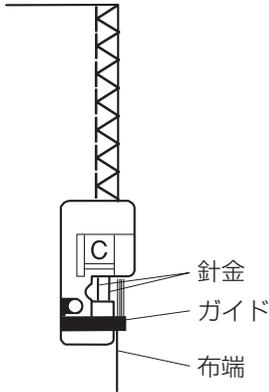
⚠ 注意

たち目かがり押さえ C を使用するとき、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。
針が針金に当たり、けがの原因となります。

「基本押さえ A」を使用する場合は試しぬいをし、ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目のあらかさを調節してください。

【かがりぬい】

ミシンのセット			
模様 13 	表示画面 	押さえ  C：たち目かがり押さえ	糸調子ダイヤル オート 



地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに利用します。

布端をガイドにあててぬいます。

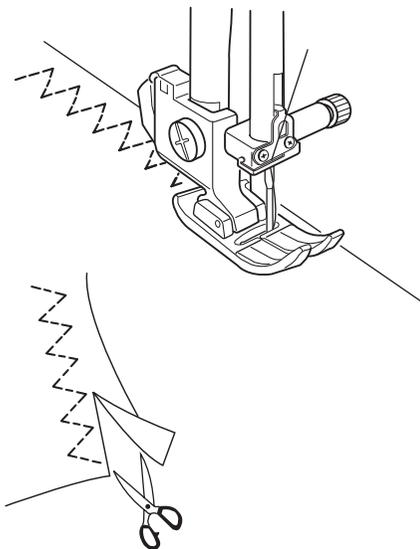
※ ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

⚠ 注意

たち目かがり押さえ C を使用するときは、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。針が針金に当たり、けがの原因となります。

● トリコットぬい

ミシンのセット			
模様 08 	表示画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 



しわになりやすい合成せんいや、伸縮性布地（ニットなど）のかがりぬいに使います。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

● ボタンホール

★ ボタンホールの種類

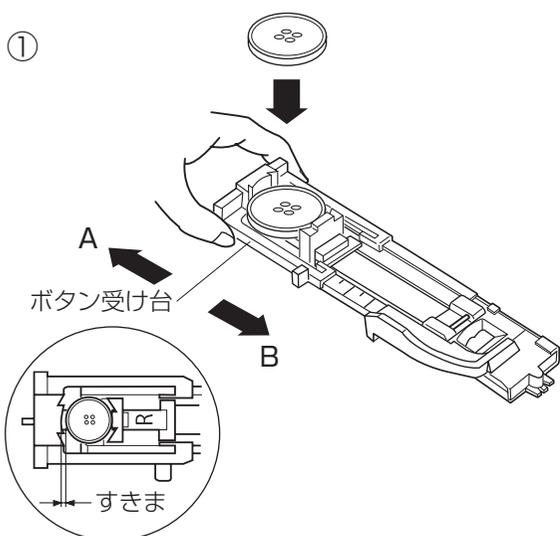
10	◎スクエアボタンホール（両止め）
	普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
11	◎片ラウンドボタンホール
	普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。
12	◎キーホールボタンホール（鳩目穴）
	普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

★ ボタンホール 10（スクエアボタンホール）

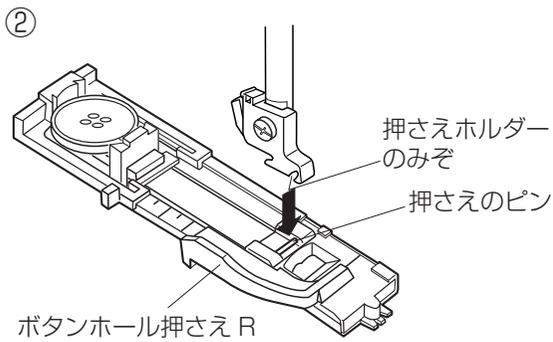
ミシンのセット

<p>模様</p> <p>10</p>	<p>表示画面</p>	<p>押さえ</p>	<p>糸調子ダイヤル</p> <p>オート</p>	<p>さげる</p> <p>ボタンホール切りかえレバー</p>
<p>ボタンホール切りかえレバー表示 R: ボタンホール押さえ</p>				

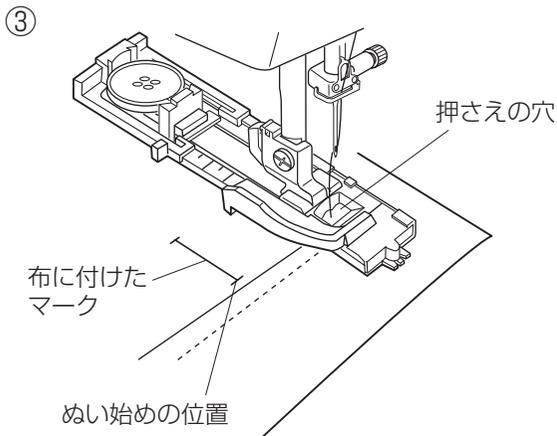
- ※ ボタンホールを選ぶと、表示画面にボタンホール切りかえレバー表示が点灯します。ボタンホールをぬうときには、ボタンホール切りかえレバーをさげてぬいます。
- ※ ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。（28 ページをごらんください。）
- ※ ボタンの直径が 1.0 cm ～ 2.5 cm までのボタンホールができます。
- ※ 使用する布の切れ端などで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ※ 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。



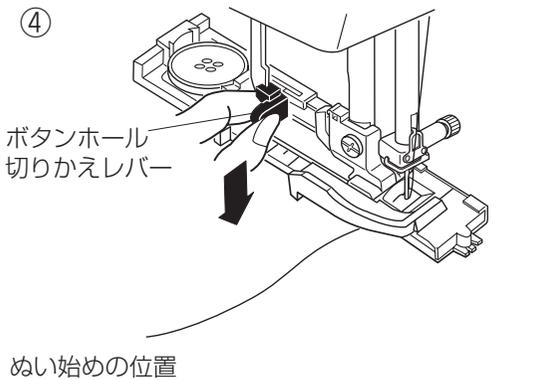
- ① ボタン受け台を A 方向に引き、ボタンをのせてボタン受け台を B 方向に戻し、ボタンをはさみます。
- ※ ボタンホールの幅は、一般的なボタンの種類に合わせてあります。厚いボタンなどは、使用する布の切れ端などに試しぬいをしてください。試しぬいをして、ボタンがボタンホールに入りにくい場合は、ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。



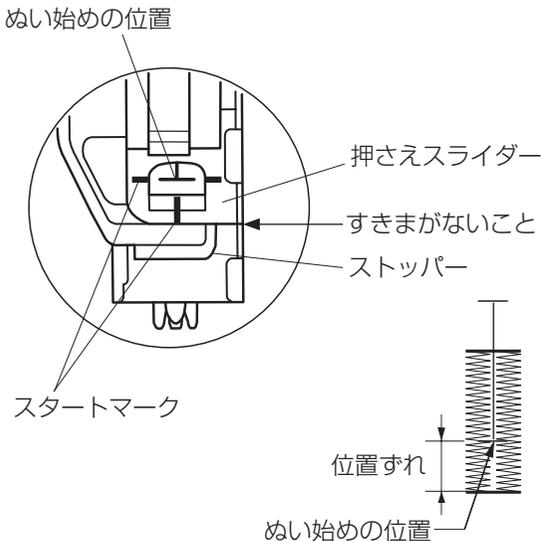
② 上下停針ボタンで針をあげた状態にします。押さえホルダーのみぞと押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえ R をセットします。



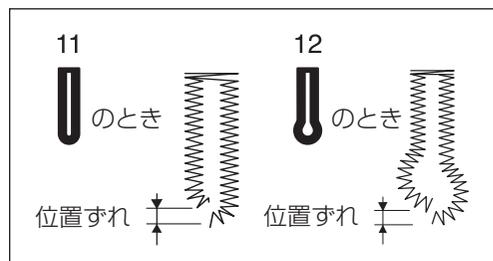
③ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、布に付けたマークのぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。



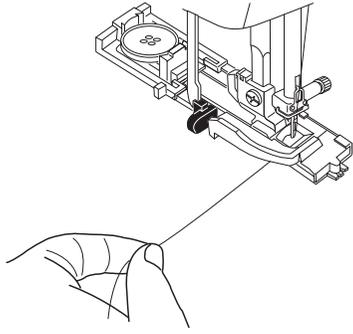
④ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引き上げます。



※ ぬい始めに、押さえスライダーとストッパーのあいだにすきまがないことを確認してください。すきまがあると、ぬい始めの位置ずれになります。



⑤



⑤ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。(ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。)

ボタンホールをぬい終わったところでほつれ止めの止めぬいを行って、自動的にミシンが停止します。

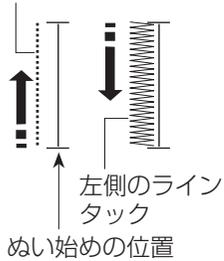
※ ぬい途中に模様番号が **6L** と表示され (2 ~ 3 秒間)、ブザーが鳴ると同時にボタンホール切りかえレバー表示が点滅したとき：

ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを 0.5 cm ぬったときに表示されます。ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートしてください。

⑥

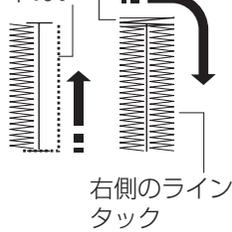
【1】

下ぬい



【2】

下ぬい



【3】



⑥ ぬい順序

【1】 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

【2】 下ぬいをし、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

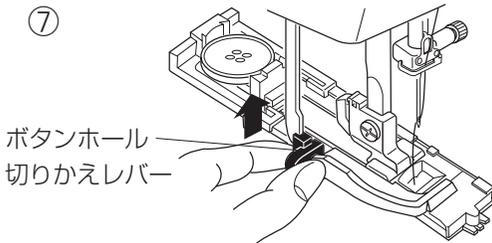
【3】 かんぬきと止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

【ボタンホール重ねぬい】

ボリューム感のあるボタンホールができます。一度目のボタンホールをぬい終わったら、押さえ上げをさげたままミシンをスタートさせます。自動的に重ねぬいをします。

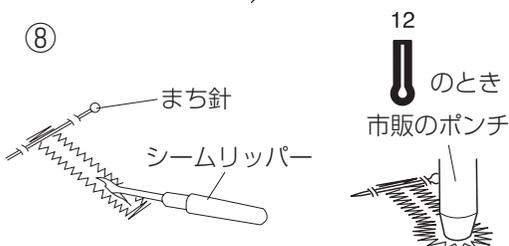
※ ボタンホールの重ねぬいで送りがつまるときは、ぬい目のあらさを大きくしてぬってください。(30 ページ参照)

⑦



⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい押しあげて戻します。

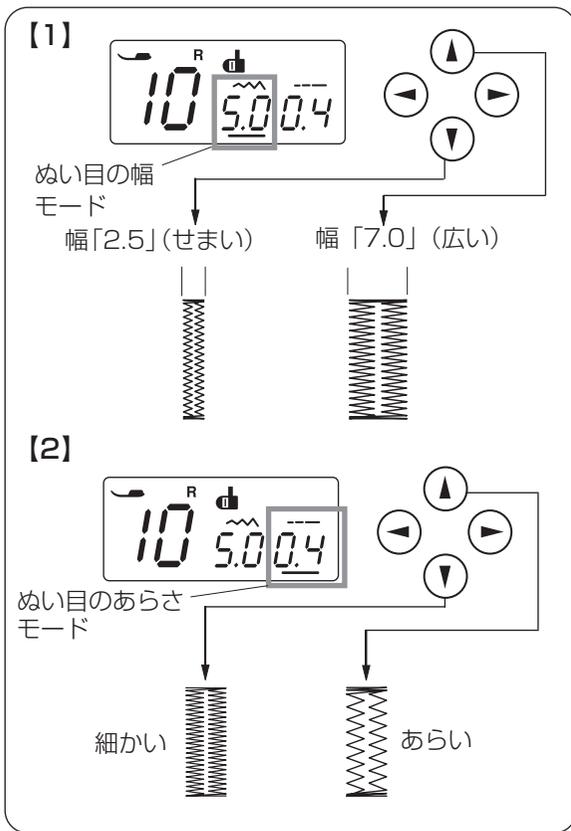
⑧



⑧ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてから、シームリッパーで切り開きます。

★ めい目の幅・あらしをかえるとき



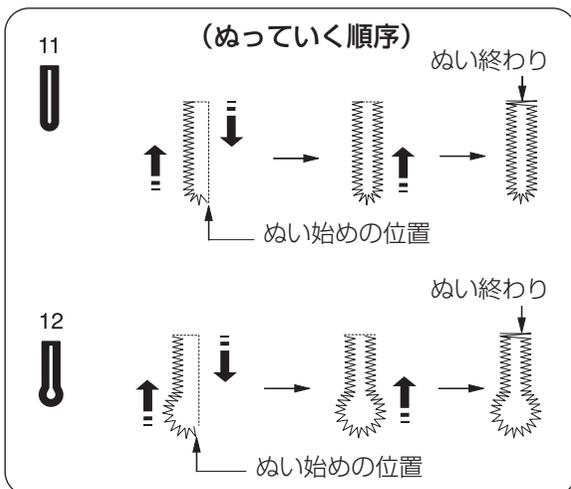
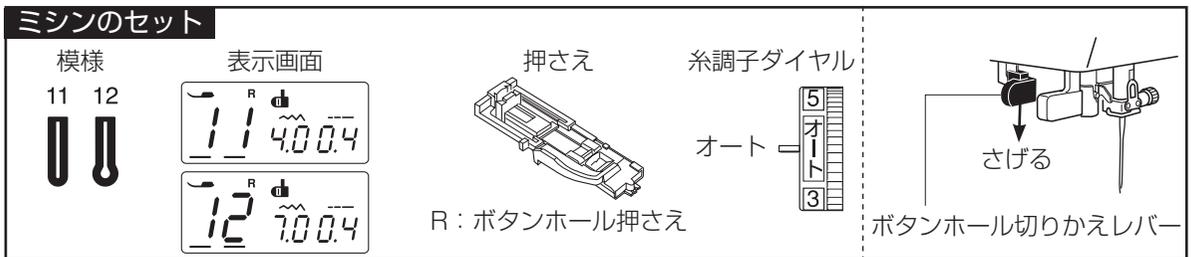
【1】 めい目の幅（ボタンホールの幅）をかえるとき

◀ ▶ ボタンで、めい目の幅モードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は5.0です。
「▲ ボタン」、「▼ ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかわります。
※ 2.5～7.0の範囲で0.5ずつかえることができます。

【2】 めい目のあらしをかえるとき

▲ ▼ ボタンで、めい目のあらしモードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は0.4です。
「▲ ボタン」、「▼ ボタン」を押すと、めい目のあらしがかわります。
※ 0.3～0.8の範囲で0.1ずつかえることができます。

★ ボタンホール 11、12 のめい



※ めい方はスクエアボタンホール 10 と同じです。(27～29 ページ参照)
※ 模様 11 のめい目の幅は 2.5～5.5 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。
※ 模様 12 のめい目の幅は 5.5～7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。

めい目のあらしは、両方とも 0.3～0.8 の範囲で 0.1 ずつかえることができます。

● 芯入りボタンホール

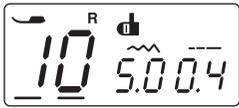
ミシンのセット

模様

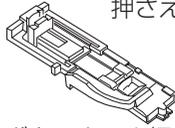
10



表示画面



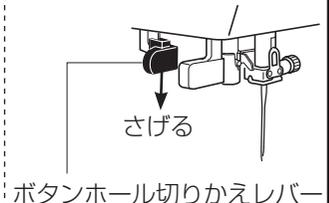
押さえ



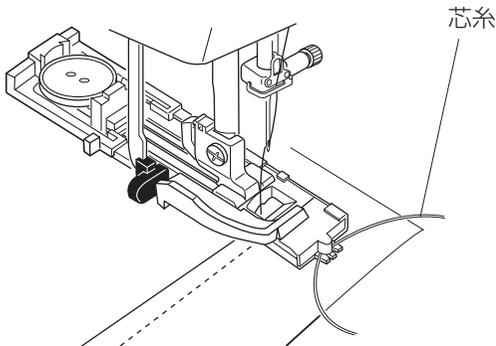
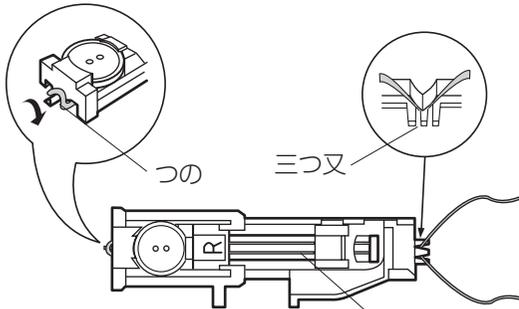
R: ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル

オート



① ②



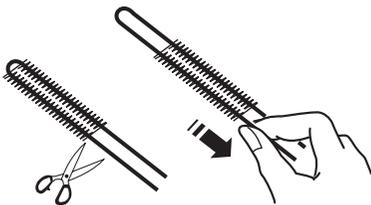
① 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつのかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

※ 芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

② ミシンをスタートさせてぬいます。

※ ぬい方はスクエアボタンホールと同じです。(27～29ページ参照)

③



③ ぬい終わったら芯糸を引いてたるみをなくし、余分な糸を切ります。

※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。

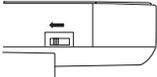
※ 穴のあけ方は、29ページをごらんください。

芯糸が引けない場合

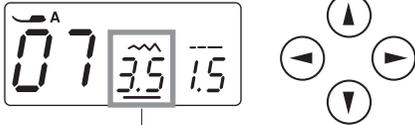


※ 左右どちらの芯糸も引けない場合は、芯糸の両側を切ります。

● ボタン付け

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ
07 		 F: サテン押さえ	オート 	 送り歯を上げます。 (9 ページ参照)

《ぬい目の幅モード》

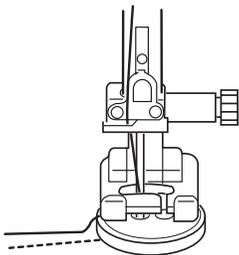


(ボタン穴の間かくと同じ値にする。)

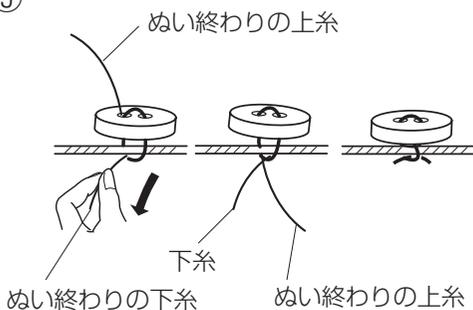
⚠ 注意

必ず針がボタンの左右の穴におりることを確認してください。
ボタンに針が当たると針が折れ、けがの原因となります。

① ② ③ ④



⑤



【準備】

- ドロップつまみで送り歯を上げます。
- スピードコントロールつまみの位置を「ゆっくり」側にして、ぬい速度を遅くします。
- ボタン穴の左右の間かくをはかります。

- ◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選び、
- ▲ ▼ ボタンではかった穴の間かくと同じ値に設定します。

【ぬい方】

※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるため、必ず模様  を選んだ直後にぬいます。一度でもぬったあとに行くと、ぬい始めに止めぬいが入りません。

- ① ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。ボタンの左右の穴が真横になるようにして、押さえ上げをさげます。
- ② はずみ車を手で手前に数回まわすと、最初に止めぬいを行うために左側の穴だけを数回ぬいます。そのあと針が右側に移動するので、針がボタンに当たらないでボタンの右の穴に入ることを確認してください。

※ 針がボタンに当たる場合、▲ ▼ ボタンでぬい目の幅を調整します。

※ はずみ車を手前にまわし続けると、最初に止めぬいを行うために左側の穴だけを数回ぬいます。

- ③ ミシンをスタートさせ、10 針くらいぬったらミシンを停止します。

- ④ 針をあげ、押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10 cm ~ 20 cm 残して切ります。

※ ぬい始めに止めぬいが入っているので、ぬい始めの上糸と下糸はボタンのきわではさみで切り取ります。(はさみは付属品には含まれていません。)

- ⑤ ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

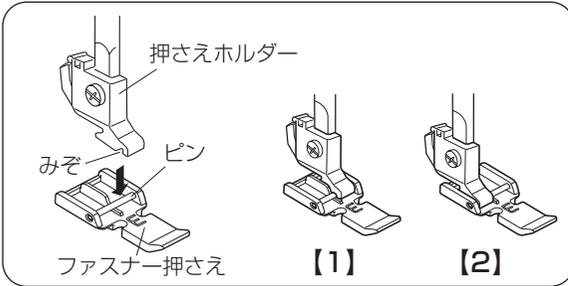
※ ぬい終わったら、ドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認してください。(9 ページ参照)

● ファスナー付け

ミシンのセット

模様 00
表示画面 00 3.5 2.2
糸調子ダイヤル オート

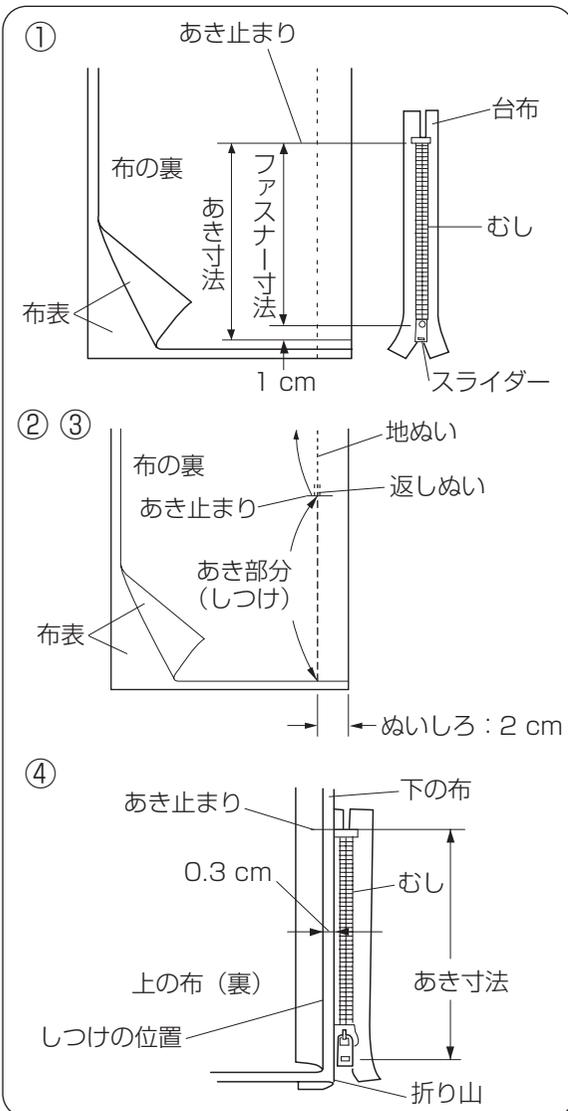
押さえ および
A: 基本押さえ E: ファスナー押さえ



【ファスナー押さえの付け方】

ファスナーのむしの左側をぬうときは、押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットします。むしの右側をぬうときは、押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

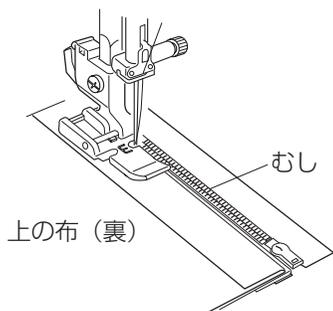
- [1] むしの左側をぬうとき**
[2] むしの右側をぬうとき



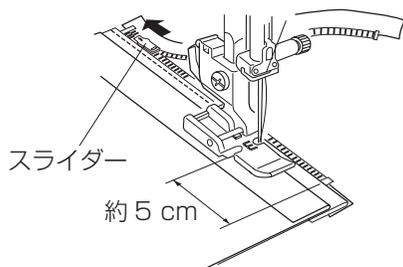
【ぬい方】(例: 左脇あきのぬい方)

- ①** ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法は、ファスナー寸法に 1 cm プラスした寸法です。
- ②** 布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
※ 地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬってください。
- ③** あき部分のしつけをします。
※ しつけは、ほどこやすくするために、ぬい目のあかさ「5.0」(約 0.5 cm)、糸調子「1」くらいでぬい(しつけ)ます。
しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび糸調子をもとの値にもどしてください。(糸調子ダイヤルの位置は「オート」)
- ④** ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3 cm 出してアイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

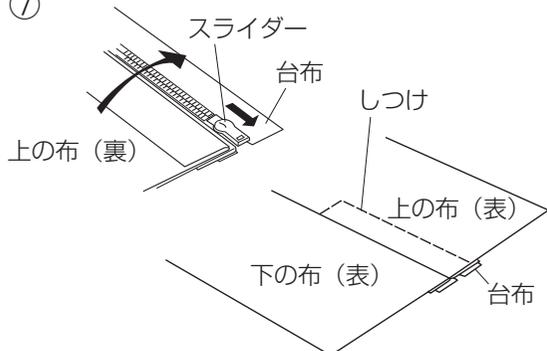
⑤



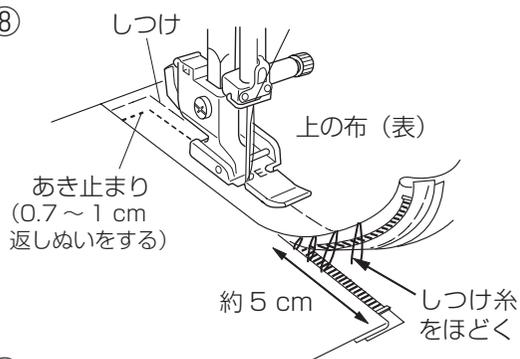
⑥



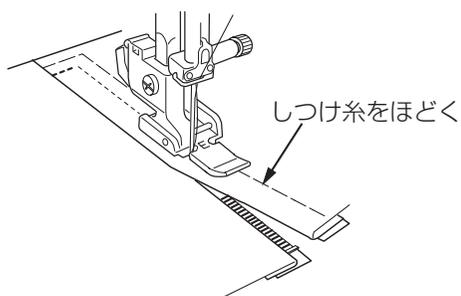
⑦



⑧



⑨



- ⑤ ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットし、むしのきわを押さえの端（右側段部）に当て、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは数針返しぬいをします。

⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえに当たらないように注意してください。針が当たると、けがの原因となります。

- ⑥ ファスナーの端から約 5 cm 手前でミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。

- ⑦ ファスナーを閉じ、スライダーを上にしたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは A：基本押さえを使用します。しつけは、ほどこやすくするために、ぬい目のあかさ「5.0」（約 0.5 cm）、糸調子「1」くらいでぬい（しつけ）ます。しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび糸調子をもとの値にもどしてください。（糸調子ダイヤルの位置は「オート」）

- ⑧ ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。上の布のあき止まりに約 0.7 cm ~ 1 cm 返しぬいしてから、むしのきわを押さえの端（左側段部）に当て、ファスナーの右側をぬいます。ファスナーの上側を約 5 cm 残したところでミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、手順③でぬったしつけ糸をほどこし、スライダーを押さえの向こう側にずらします。

⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえに当たらないように注意してください。針が当たると、けがの原因となります。

- ⑨ 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順⑦でぬったしつけ糸をほどこします。

● まつりぬい

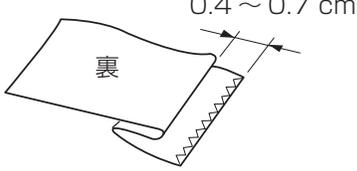
ミシンのセット



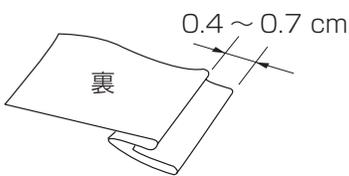
※ 模様 15 は、伸縮性のある布をぬうときに利用します。

【布の折り方】

《厚い布の場合》

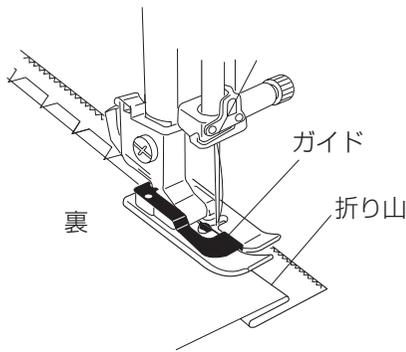


《うすい布、普通の布の場合》



【ぬい方】

①



②



布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を約 0.4 ~ 0.7 cm はみ出させます。

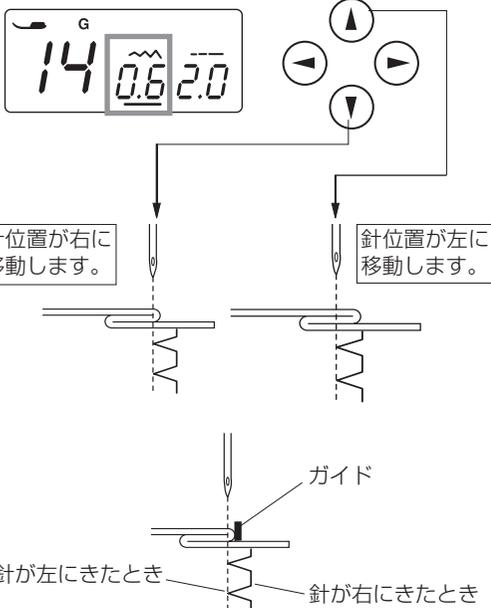
① ガイドに折り返しを合わせ、針が折り返しから外れないように針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布を表に戻します。

※ 左側におりる針が必要以上に折り返しにかかりすぎると表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。

【針位置の調節】

《ぬい目の幅モード》



◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。初期値（購入時のセット状態）は 0.6 です。

※ 表示 0.6 はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。

※ 模様 14、15 は、ぬい目の幅は変化せず模様（針位置）が左右に移動します。

針が折り返しにかからない場合「▲ボタン」を押して針位置を左に移動させます。

針が折り返しにかかりすぎる場合「▼ボタン」を押して針位置を右に移動させます。

◎ 応用ぬい

● ピンタック

ミシンのセット

模様 01 	※ 表示画面 	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 	※ 押さえの画面表示は、基本押さえ A になっていますが、ピンタックは、まつりぬい押さえ G を使用してください。
		G: まつりぬい押さえ		

- ① ① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。
- ② ② ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけて整えます。

● パッチワーク

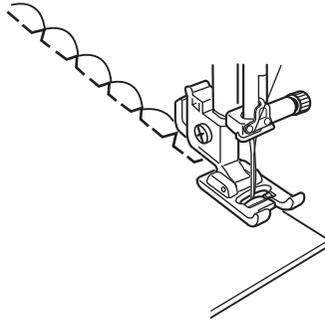
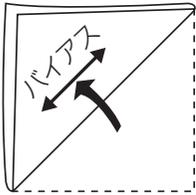
ミシンのセット

模様 09 17 	表示画面 	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 	
		A: 基本押さえ		

- ① ① 布を中表に合わせ、基本押さえ A で地ぬいをします。
※ 地ぬいは、布端を針板の手前側のガイドライン 0.65 cm (1/4 インチ) に合わせてぬいます。
- ② ② ぬいしろを割り、布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

● シェルタック

ミシンのセット			
模様 16 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル 6~8 



トリコットなど、うすい布を使用してください。
図のように布を折り、折り目にステッチします。
布をバイアスに二つ折りにします。

右側の針位置が布の折り山のきわ（外側）になるようにぬいます。

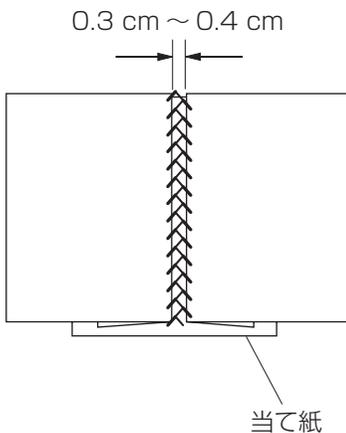
布をひらき、アイロンで山を片側にたおします。

※ 試しぬいをして、シェルタックの山がきれいになるように糸調子を調節します。

※ シェルタックをいくつか並べてぬう場合、最低 1.5 cm あいだをあけてください。

● ファゴティング

ミシンのセット			
模様 17 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 



2 枚の布のすき間をあけて、つなぎ合わせる
ことができます。

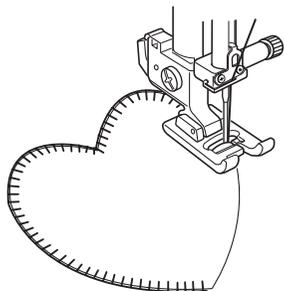
布の端を約 1.5 cm 裏側に折り、アイロンを
かけます。

布端と布端の間かくを 0.3 cm ~ 0.4 cm あ
けて、下に当て紙をします。

布の表から間かくの中央を中心にしてぬい
ます。最後に当て紙をとります。

● アプリケ

ミシンのセット			
模様 18 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 



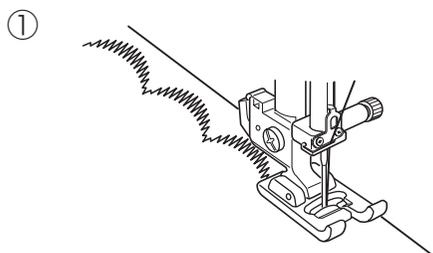
アプリケ布をのり付けするか、しつけて止めます。

模様の針位置が右のときに、アプリケ布の縁の外側にささるようにぬいます。

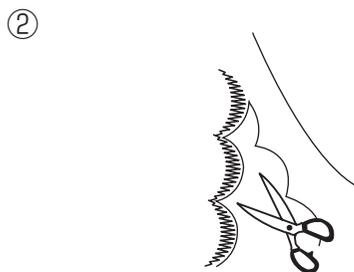
カーブのところや方向転換するところでは、アプリケ布の外側に針がささった位置でミシンを停止し、針をさしたまま押さえ上げをあげて方向をかえるときれいに仕上がります。

● スカラップ

ミシンのセット			
模様 19 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 



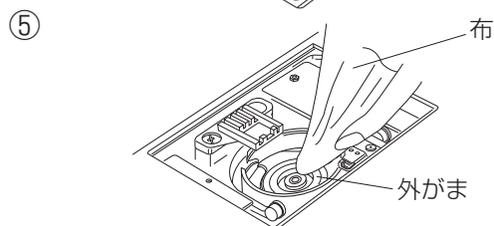
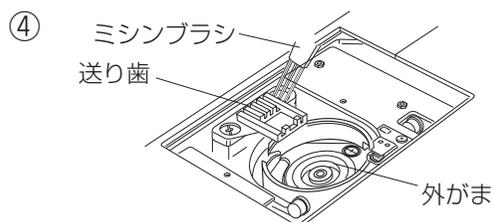
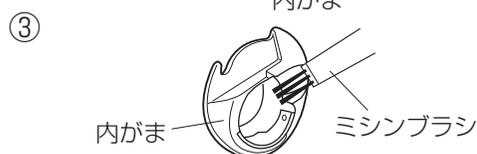
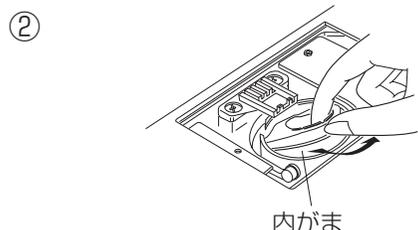
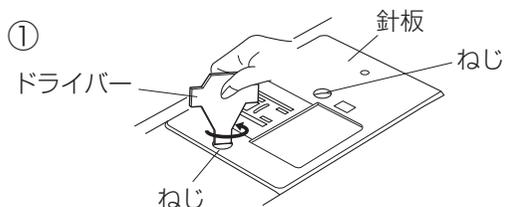
- ① 布の表から布端を約 1 cm 残してぬいます。
※ 必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。



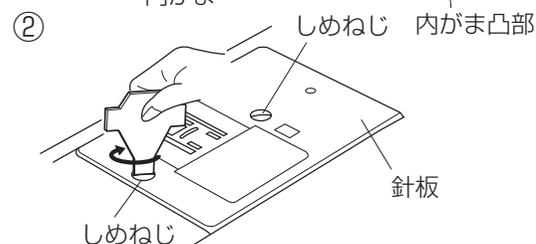
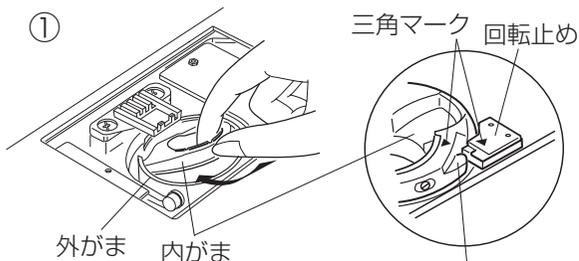
- ② 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯、糸切り部の掃除



●内がまと針板の組み付け



⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

※ 針と押さえホルダーを外し、角板を外してボビンを取り出します。

- ① ねじ（2 個）を外し、針板を外します。
- ② 内がまの手前を上へ引きながら内がまを外します。
- ③ 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、やわらかい布で軽くふきます。
- ④ 送り歯のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ⑤ 外がまの中央部をやわらかい布で軽くふきます。

※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

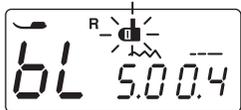
お願い：

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

- ① 内がまを取り付けます。
内がまの三角マークと回転止めの三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側にくるように取り付けます。
※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。
- ② 針板を取り付け、しめねじ 2 個をドライバーでしっかりしめます。
※ お手入れが終わったら、忘れずにボビン、角板、押さえホルダー、押さえ、針を取り付けてください。

◎こんな表示が出た場合

●表示画面の対処方法

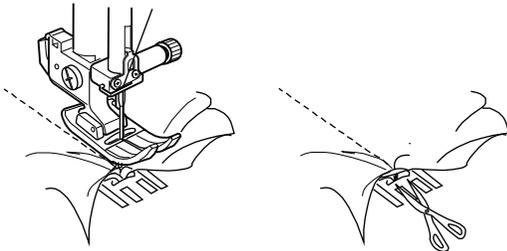
表示	対処方法
	<ol style="list-style-type: none"> 1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップボタンを押したときに、フットコントローラー表示が点滅します。スタート/ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。 2. フットコントローラーが壊れているときに表示されます。(フットコントローラー表示が点滅) お買い上げの販売店へご連絡ください。
	<p>ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを 0.5 cm ぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。 ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。</p>
	<p>糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 糸巻き軸を元の位置（左側）にもどすと表示が消えます。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後 15 秒間のあいだに再スタートしようとする则表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。 2. 糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。 電源スイッチを切り、不要な糸を取り除いてください。
<p>(E1-E7)</p> 	<p>ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。 電源を切り、針板を外し、かまや送り歯、糸切り部に糸がからんでいないか確認してください。 直らない場合は電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。</p>

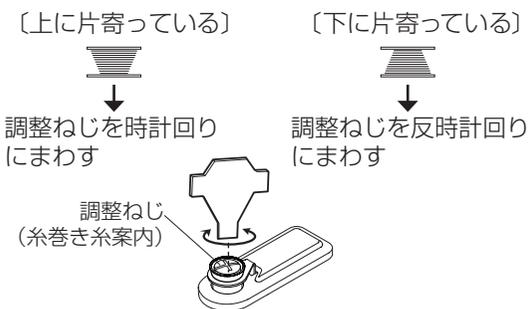
●ブザー音の種類

ブザー音	内容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシンが正しく作動しなかった場合の警告音です。(E1-E7)
ピピピー	ボタンホールぬい完了などの終了音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

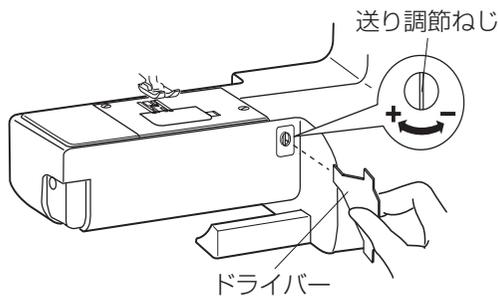
調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。糸調子皿から上糸が外れている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに、上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>16 ページ参照</p> <p>11 ページ参照 12 ページ参照 12 ページ参照 20 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す 12 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方がまちがっている。 2. 内がまの中にごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。 	<p>15 ページ参照 39 ページ参照 ボビンを交換する 14 ページ参照</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめ付けがゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様にあった押さえを使用していない。 	<p>12 ページ参照 12 ページ参照 布を向こう側に出す 12 ページ参照 指定の押さえに交換する</p>
ぬい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメプルー針（オプション）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>12 ページ参照 12 ページ参照 12 ページ参照</p> <p>16 ページ参照 針を交換する</p>
ぬい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついたりしている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. ぬい目のあらかさが布に対してあらかすぎる。 5. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。 	<p>11 ページ参照 15、16 ページ参照</p> <p>12 ページ参照 ぬい目を細かくする 芯地を貼る</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>39 ページ参照 ぬい目をあらくする 9 ページ参照</p>
ぬい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>11 ページ参照 12 ページ参照</p>
ぬい目に下糸が出る	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 	<p>15 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 11 ページ参照</p>
ぬい始めの糸がらみ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえていない。 	<p>16 ページ参照 20 ページ参照</p>
うすい布、伸縮性の布が食い込む	<ol style="list-style-type: none"> 1. 布に対して針と糸があっていない。 2. 左針位置でぬっていない。 	<p>12 ページ参照 左針位置でぬう</p>

調子が悪い場合	原因	直し方
布裏で糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 (手順 ② の図) 	16 ページ参照 【からまっている糸の取り方】 ① 電源スイッチを切る。 ② 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る。 ③ 針板を外す。 (39 ページ参照) ④ ボビン、内がまを外し、からまっている糸を切る。 (13、39 ページ参照) ⑤ ボビン、内がま、針板を取り付ける。 (15、39 ページ参照) ⑥ 上糸をかけ直す。 (16 ページ参照)
ボタンホールがうまくぬえない	1. ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3. 布に対してぬい目のあさが合っていない。	28 ページ参照 伸びない芯地を貼る 30 ページ参照
上糸が抜ける	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに布に針をさしていない。	16 ページ参照 20 ページ参照
ぬい始めの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえていない。	16 ページ参照 20 ページ参照
ぬい終わりに下糸が二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して針をあげる
かまに糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	16 ページ参照 かまの交換 39 ページ参照
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	16 ページ参照 16 ページ参照
フットコントローラーを踏み込んでも動かない	1. 画面表示にフットコントローラーの表示が出ないうちにフットコントローラーを踏んだ。  2. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。	フットコントローラーの表示が出たあとにフットコントローラーを踏む 5 ページ参照
糸通しができない	1. 針と天びんが上にあがっていない。 2. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	17 ページ参照 12 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。	39 ページ参照 39 ページ参照 異常ではありません

調子が悪い場合	原因	直し方
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。 (糸巻状態になっている) 4. フットコントローラーを接続したままでスタート /ストップボタンを押している。 5. 天びん内部に糸がからんでいる。 	5 ページ参照 39 ページ参照 14 ページ参照 フットコントローラーを外す 44 ページ【面板の取り外し、取り付け方】を参照しからんでいる糸を取り除く
模様があくずれる	1. 模様が正しく調整されていない。	44 ページ【模様の形の整え方】を参照
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向がちがう、または下糸が内がまのばねに入っていない。) 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	15 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 11 ページ参照
ボビンに下糸がうまく巻けない	1. 下糸のかけ方がまちがっている。 2. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。 	14 ページ参照 調整ねじをまわす 注意： 調整ねじをまわす範囲は、1 回転までにしてください。部品が外れます。

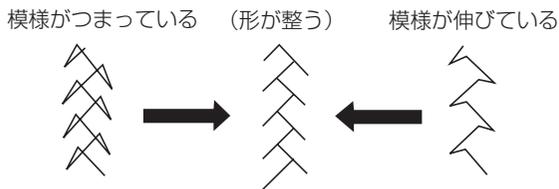
- ※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
- ※ 長時間使うと画面付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
- ※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

【模様形の整え方】



布の種類や厚さなど、ぬいの条件によって模様
の形がくずれる場合があります。

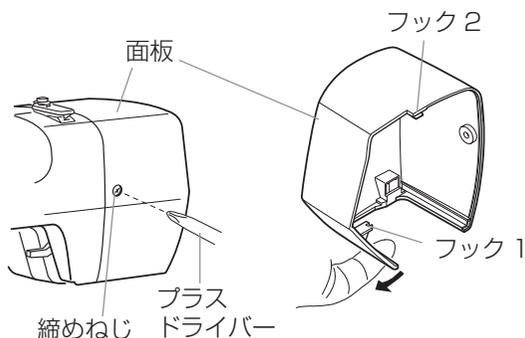
ぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様
の形がくずれる場合は補助テーブルを外し、送り調
節ねじで調節します。



例【模様¹⁷のとき】

- 模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」の方向にまわします。
- 模様が伸びているときは、送り調節ねじを「-」の方向にまわします。

【面板の外し方・付け方】



【外し方】

- ① 電源スイッチを切ります。
- ② プラスドライバーで締めねじを外します。
(プラスドライバーは付属には含まれていません。)

※ 面板を外すとき、面板の下側を手前に引き、
左にスライドさせ、フック 1 を外したあと、
フック 2 を外します。

【付け方】

- ① フック 2 を取り付けたあと、面板の下側を手
前に引き、右にスライドさせてフック 1 を取
り付け、締めねじで固定します。

※ ぬうときは、必ず面板を取り付けてください。

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。



ジャノメ HP
FAQ ページ



ジャノメ公式
Instagram



ジャノメ公式
YouTube チャンネル

仕 様	
使用電圧	100 V 50/60 Hz
消費電力	35 W
外形寸法	幅 406 mm × 奥行 174 mm × 高さ 298 mm
質 量	5.4 kg (本体)
使用針	家庭用 HA × 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 毎分 700 針

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間の基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

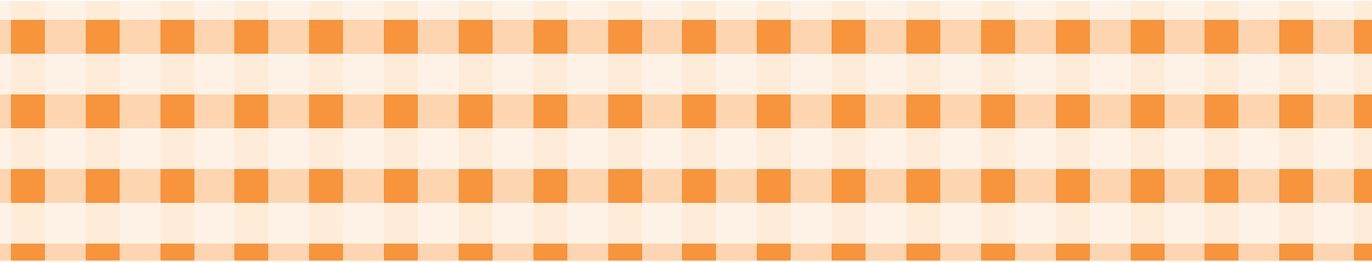
株式会社ジャノメ

住所 〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

電話 お客様相談室 0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>
問合せフォームをご利用ください。



808-851-459

